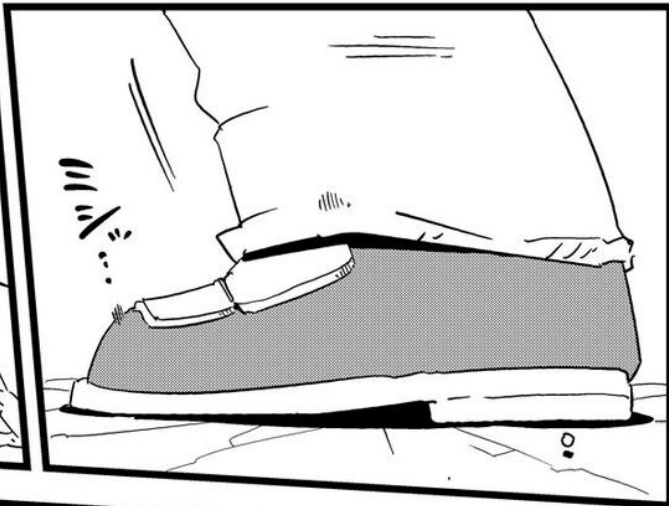
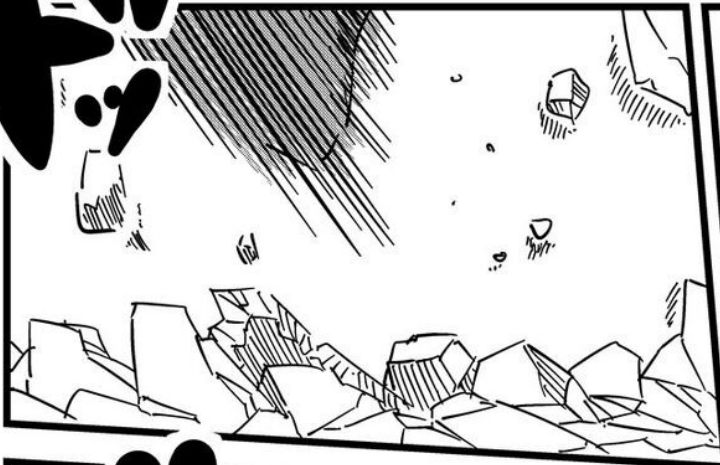


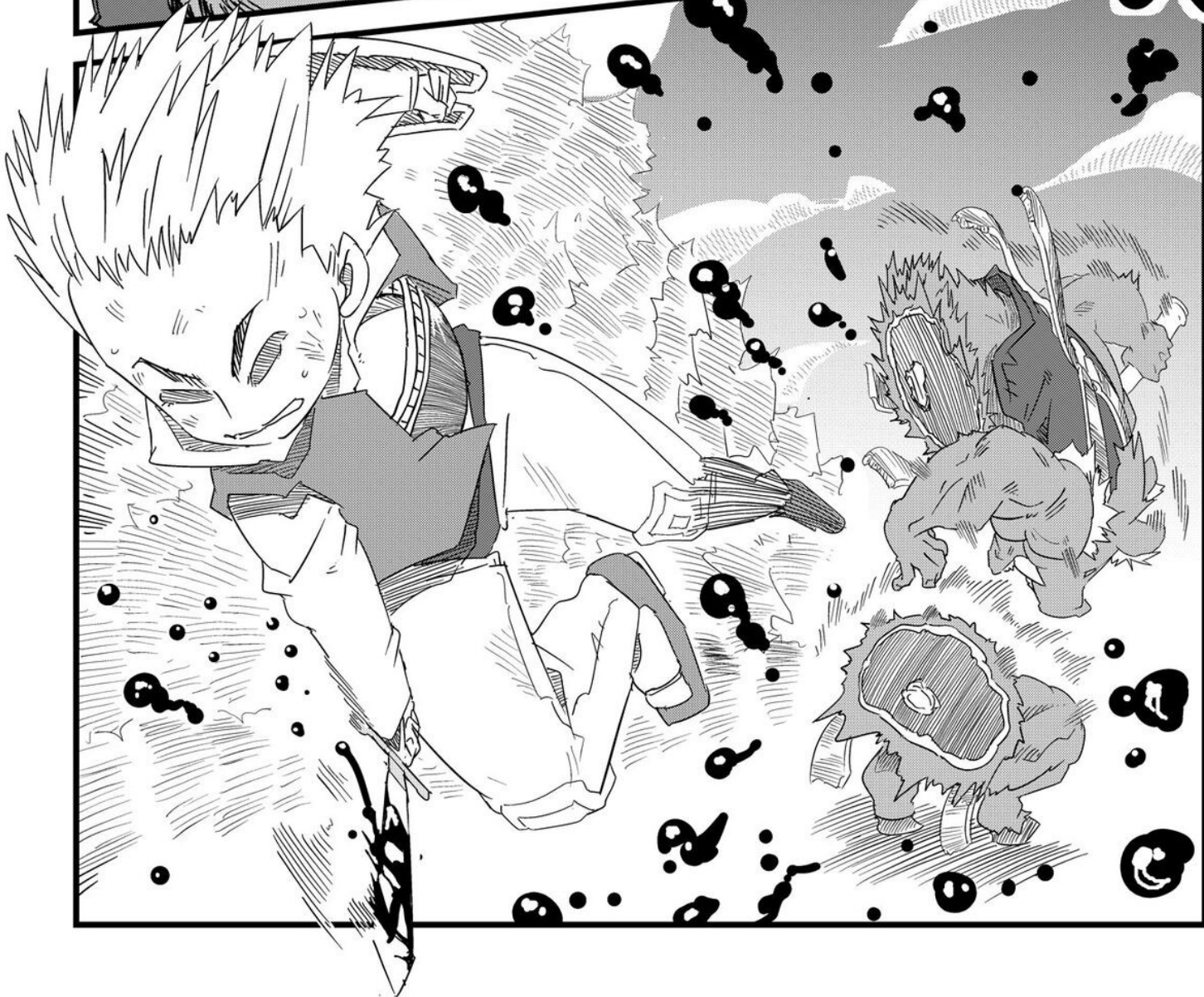
ド

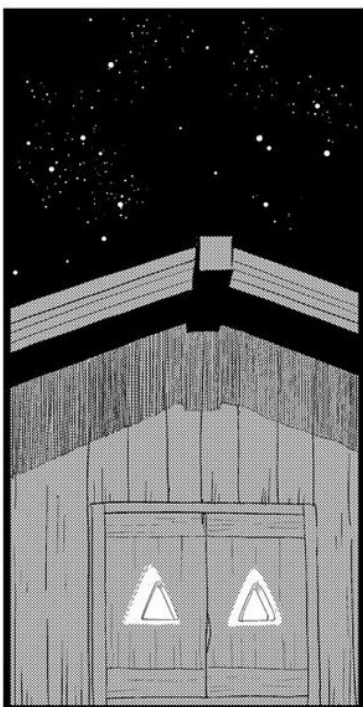
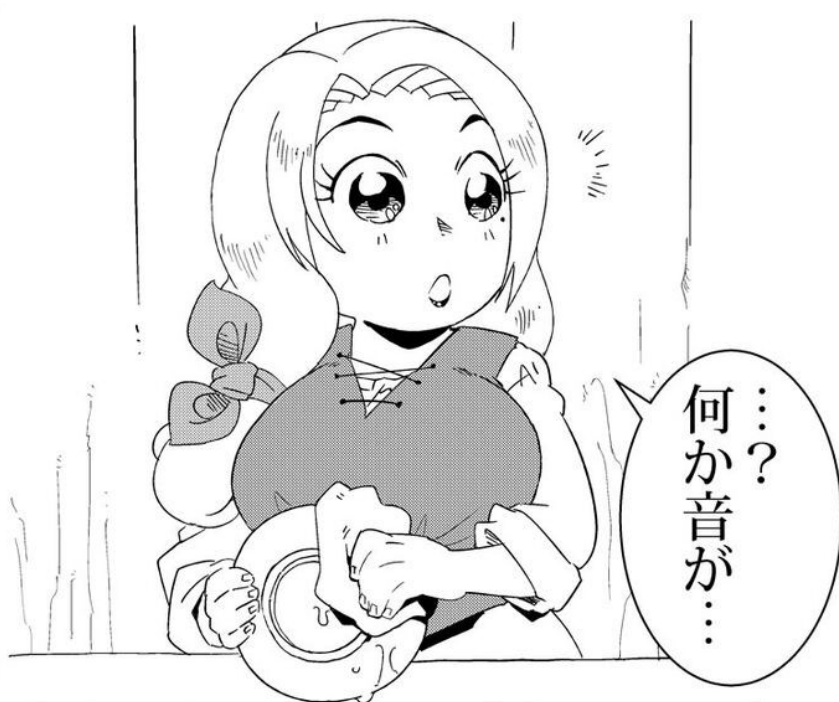
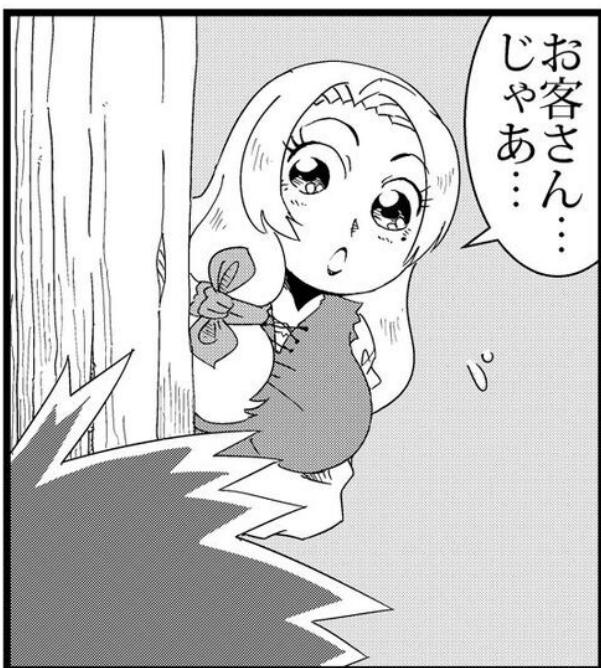
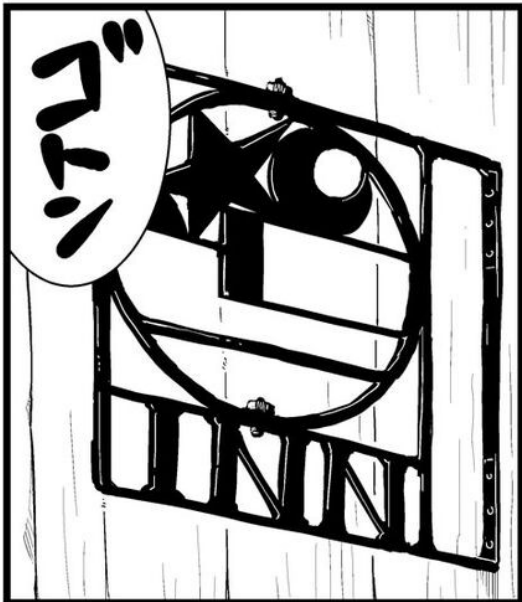


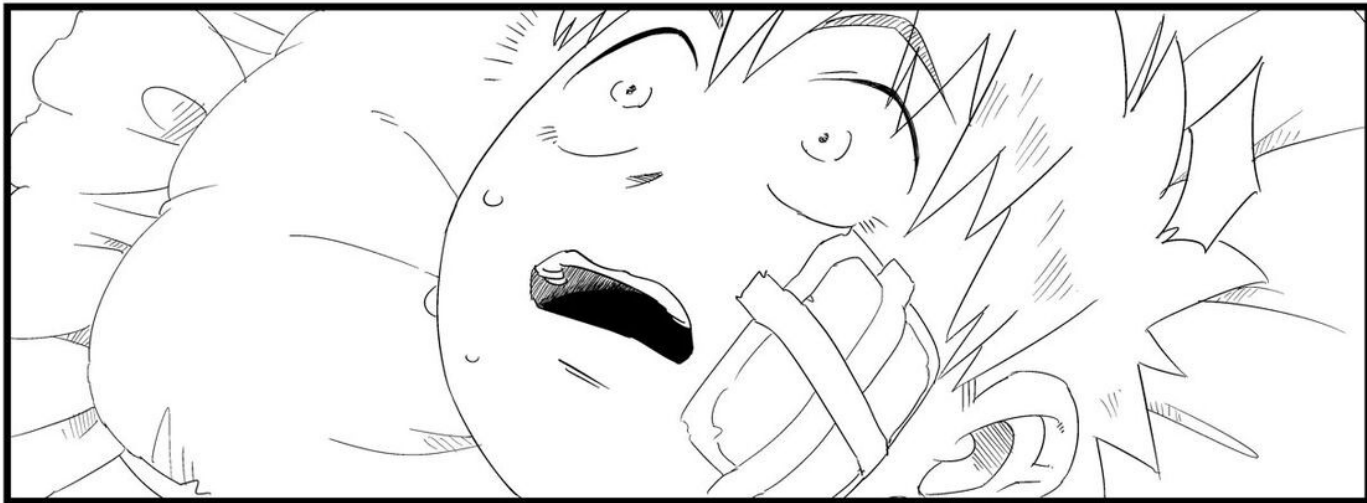
ガ

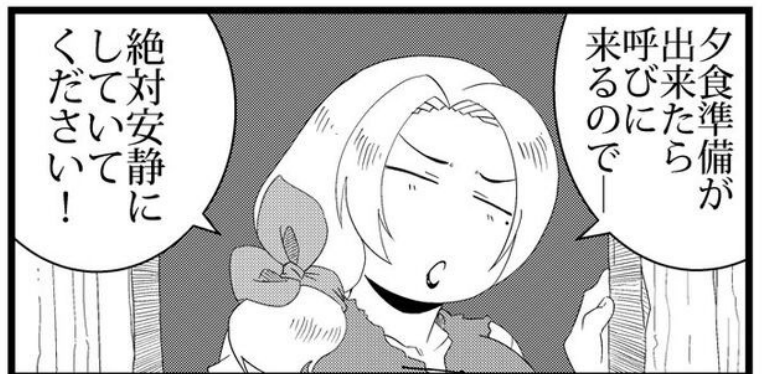
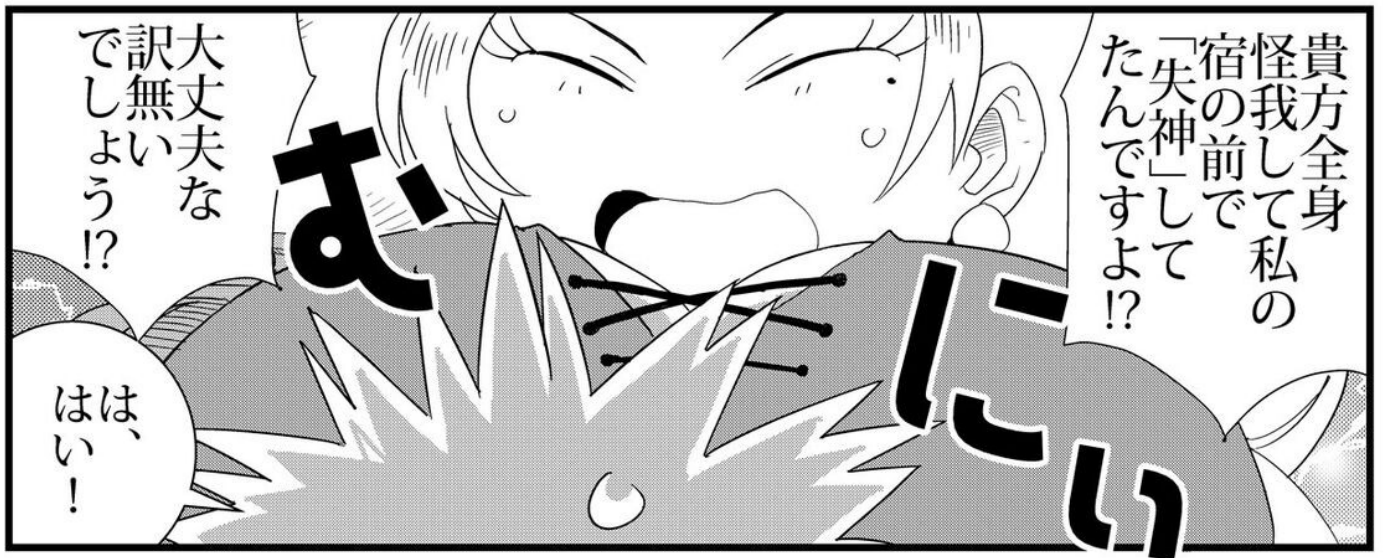
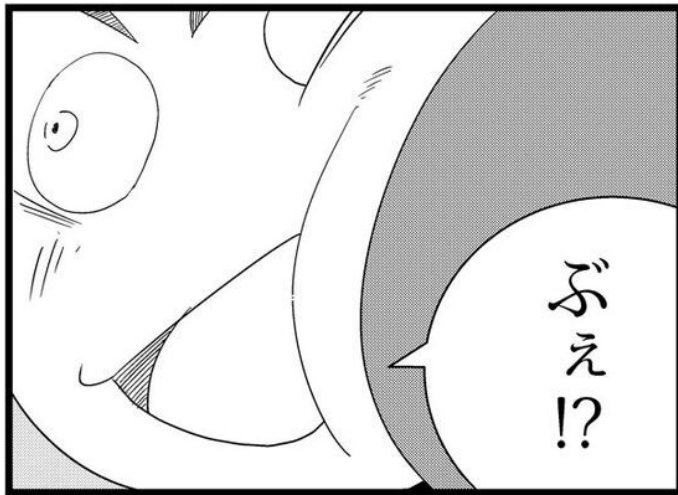
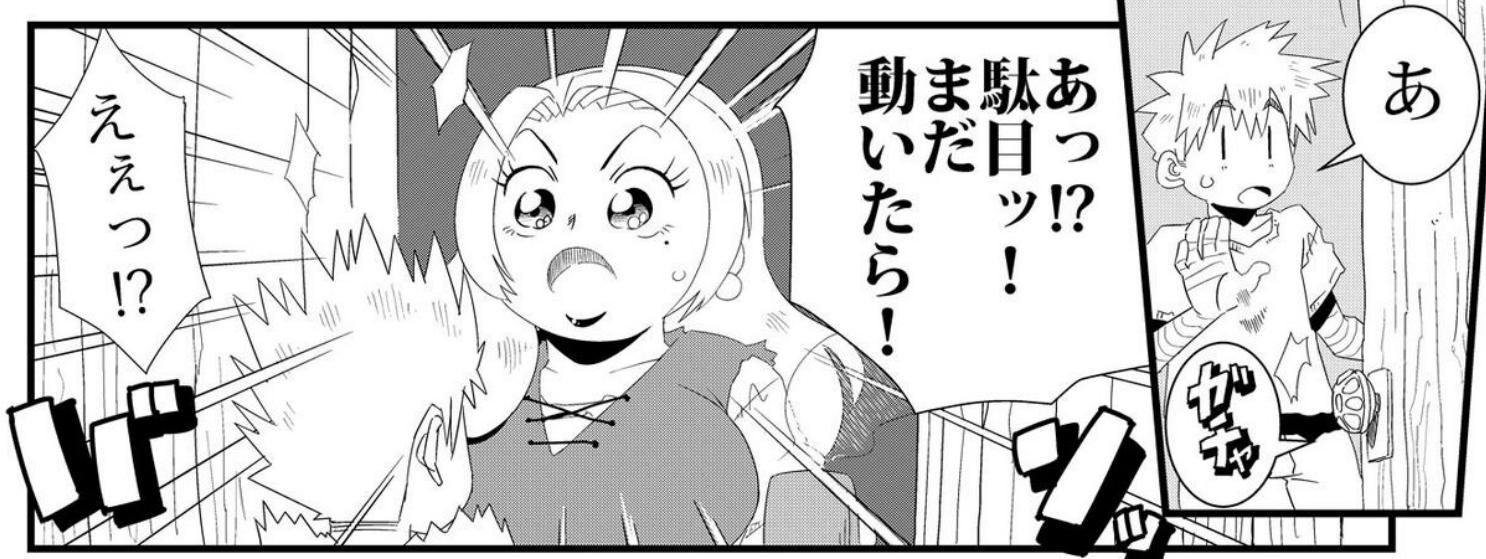


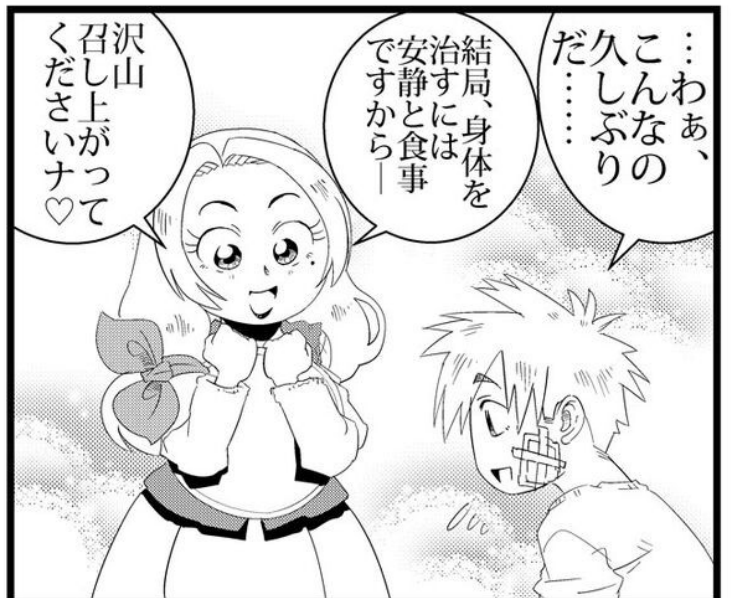
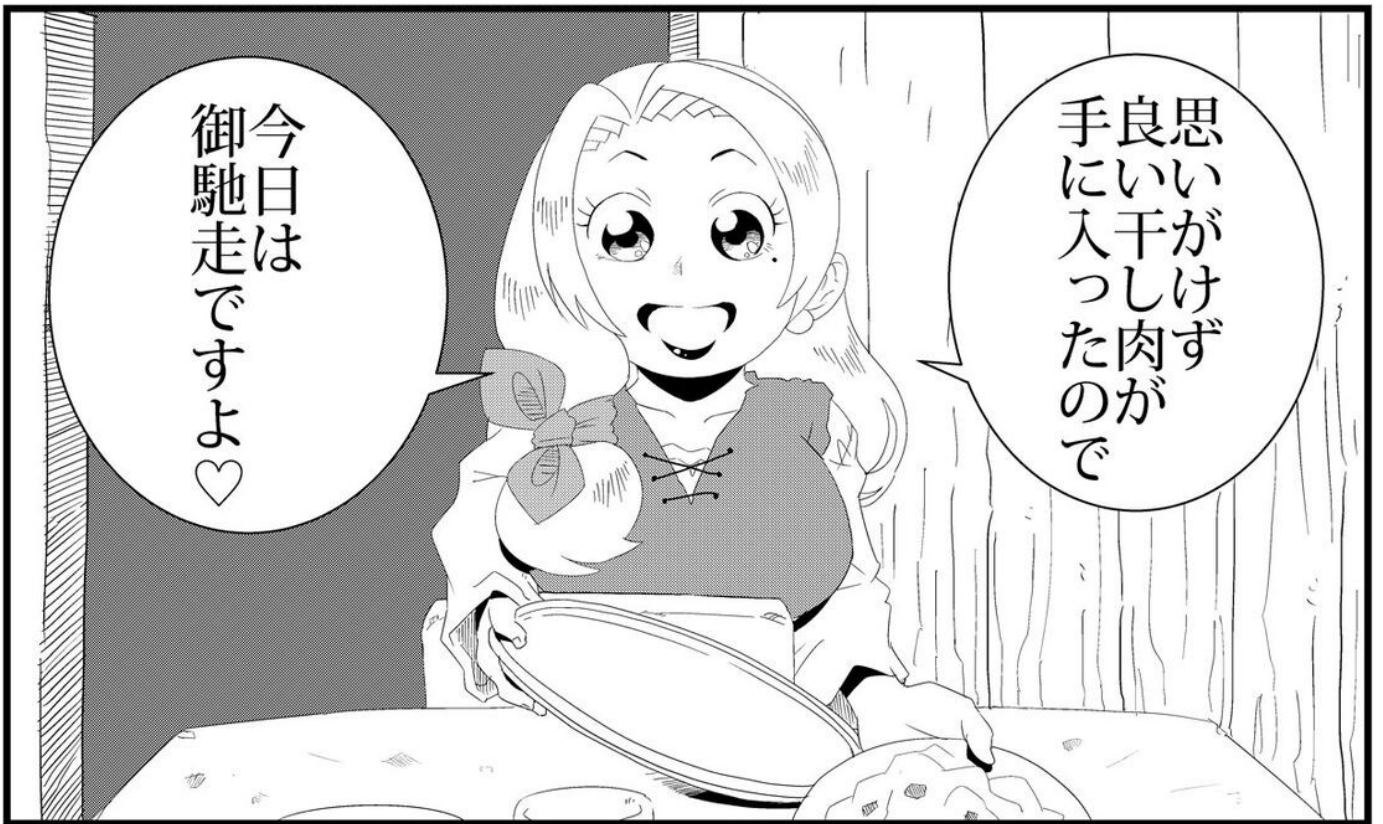
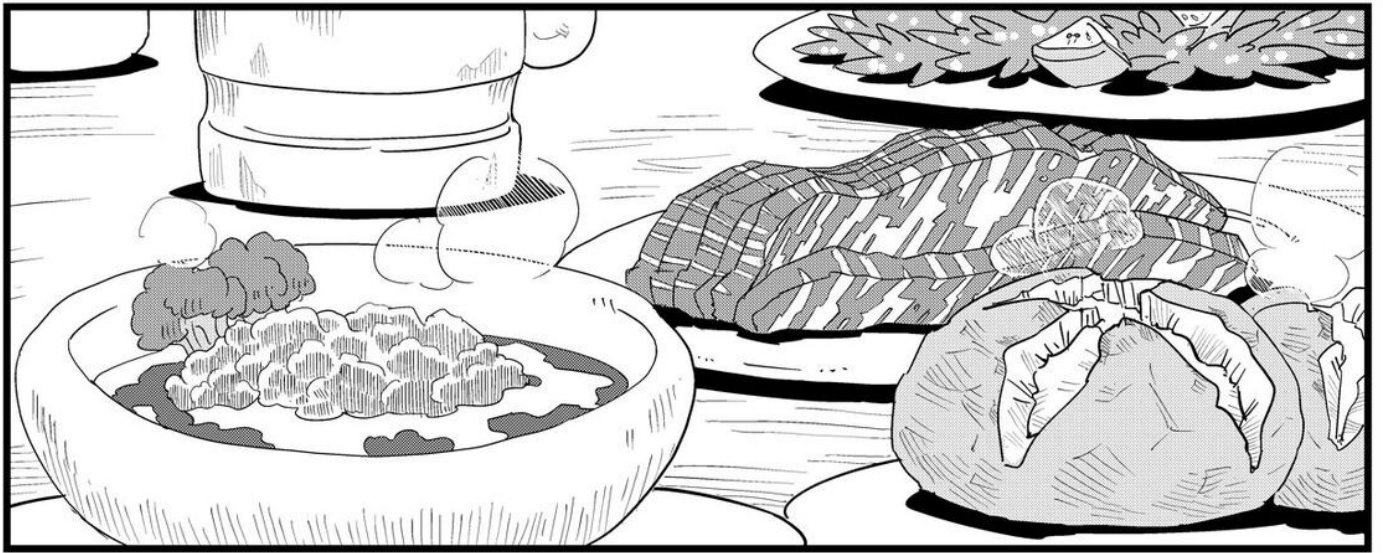
ガ

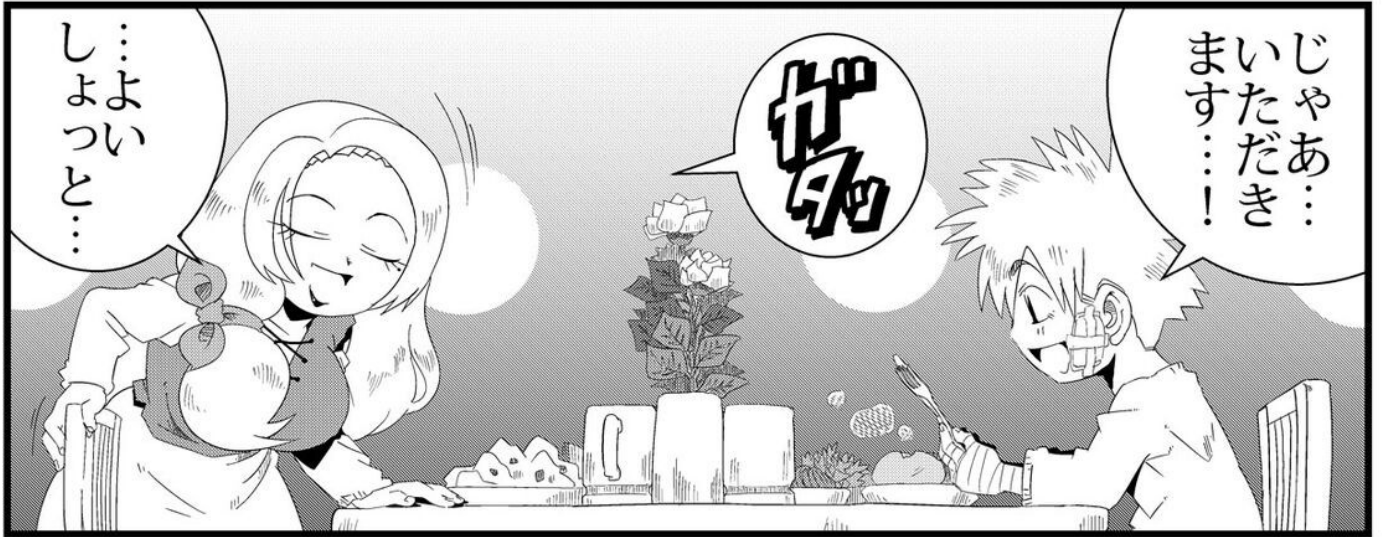












…よつと…

じゃあ…
いただきます…!

ガッ



ええ、
私達だけ
ですよ?

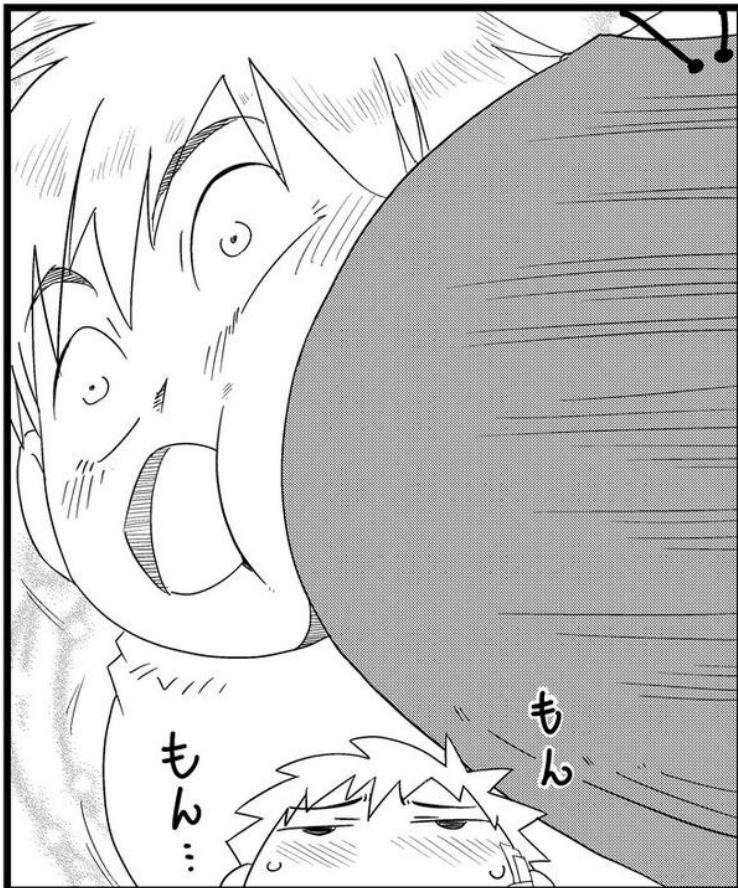
は!
二人だけ!?

女性と
ニトキス!?



…?
おかみさんも
ここで食事を?

はい!
この家には
私達二人
だけです!



もん…

もん



二人とも
言っても
こんな

オバさん
とだし
気兼ね
ないで
しょ?

若いコ
だった
良かった
のよ

いや、
そんな…

あの辺はあまり人が来ないんじゃないでしょうか？

そーなんですよ！この付近に「魔竜」直属の配下の砦があるの！

「魔竜直属」の配下…か

道理で何度も死にかけた…

…但しこの村はかつて古龍と闘った女神様の「御加護」がありますから安心して下さい♡

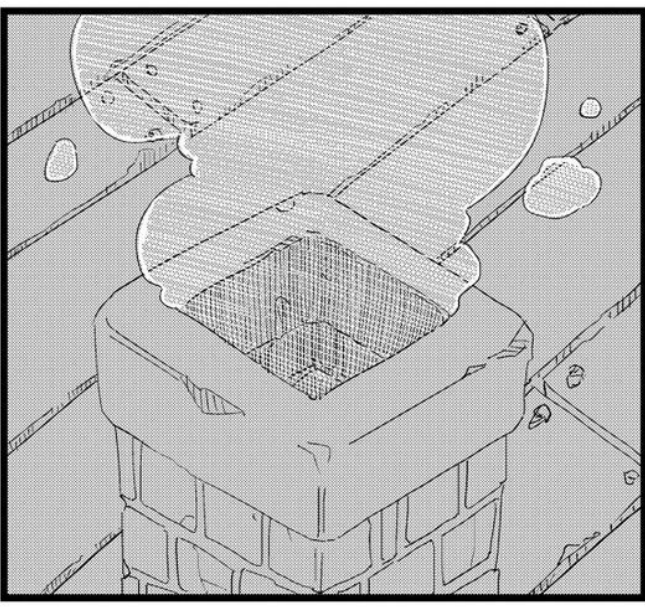
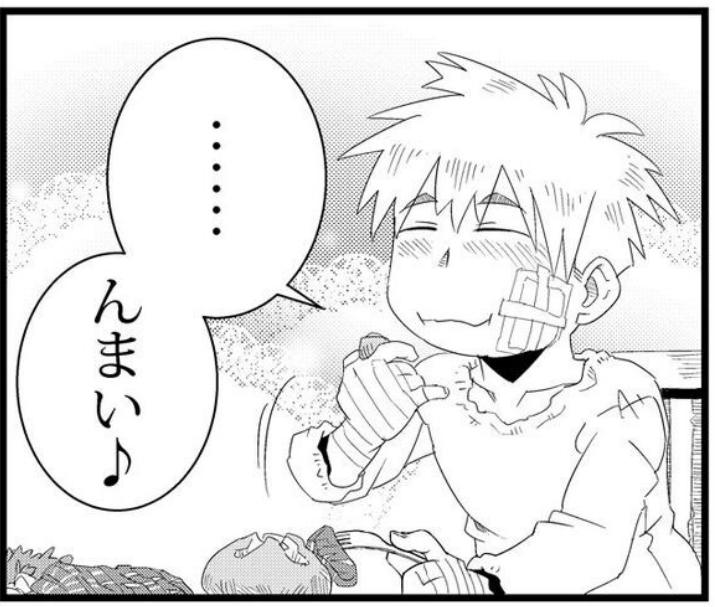
ここも「宿」を謳ってますケド空き部屋を利用してるだけの普通の家なので自分の家と思ってください♪

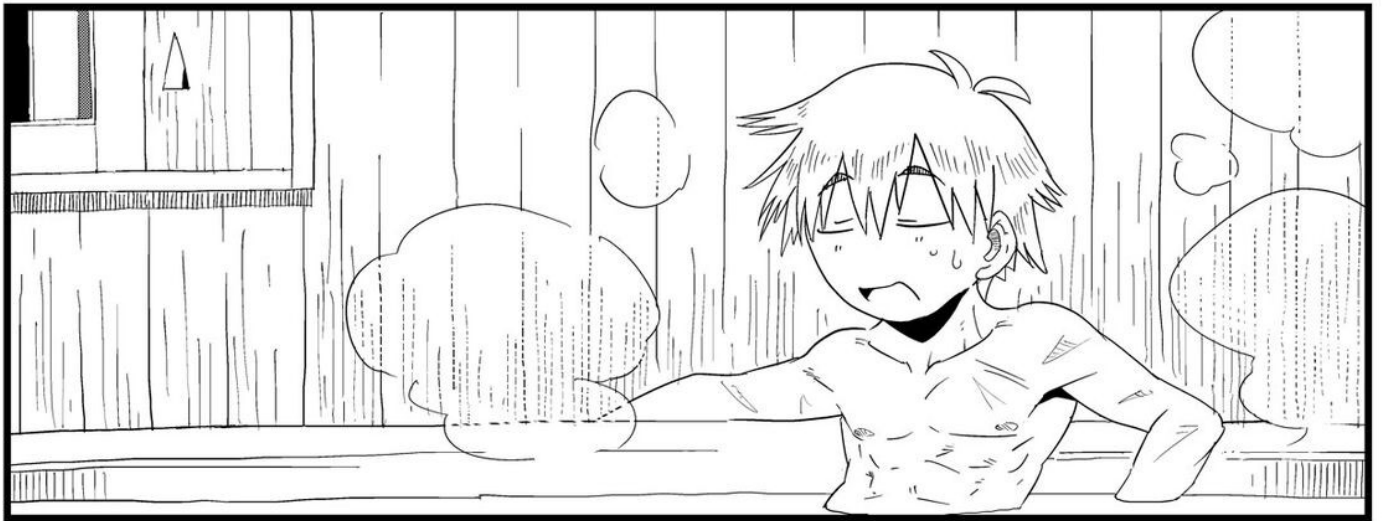
…？もう、よろしいんですか？

パンとスープだけしか…

私、この後もやる事がありませんで…

どうぞごゆっくり…





こーやって
湯船に浸か
れるしー



：怪我は
したケド：

傷が浅くて
助かったナ：

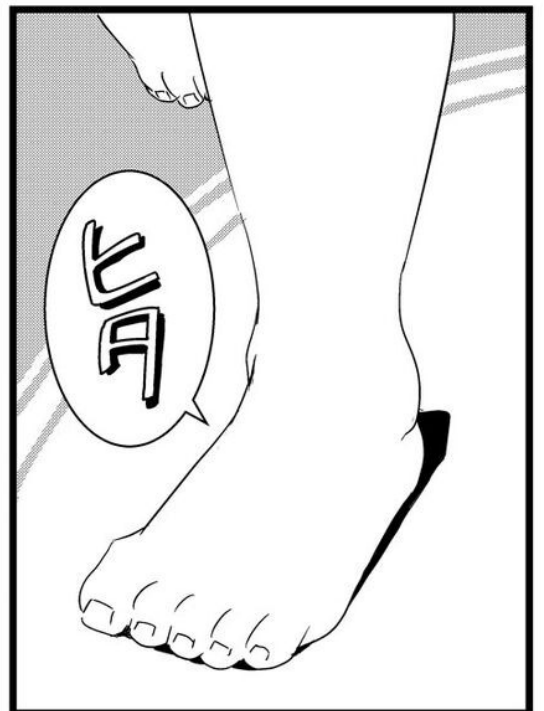


何より

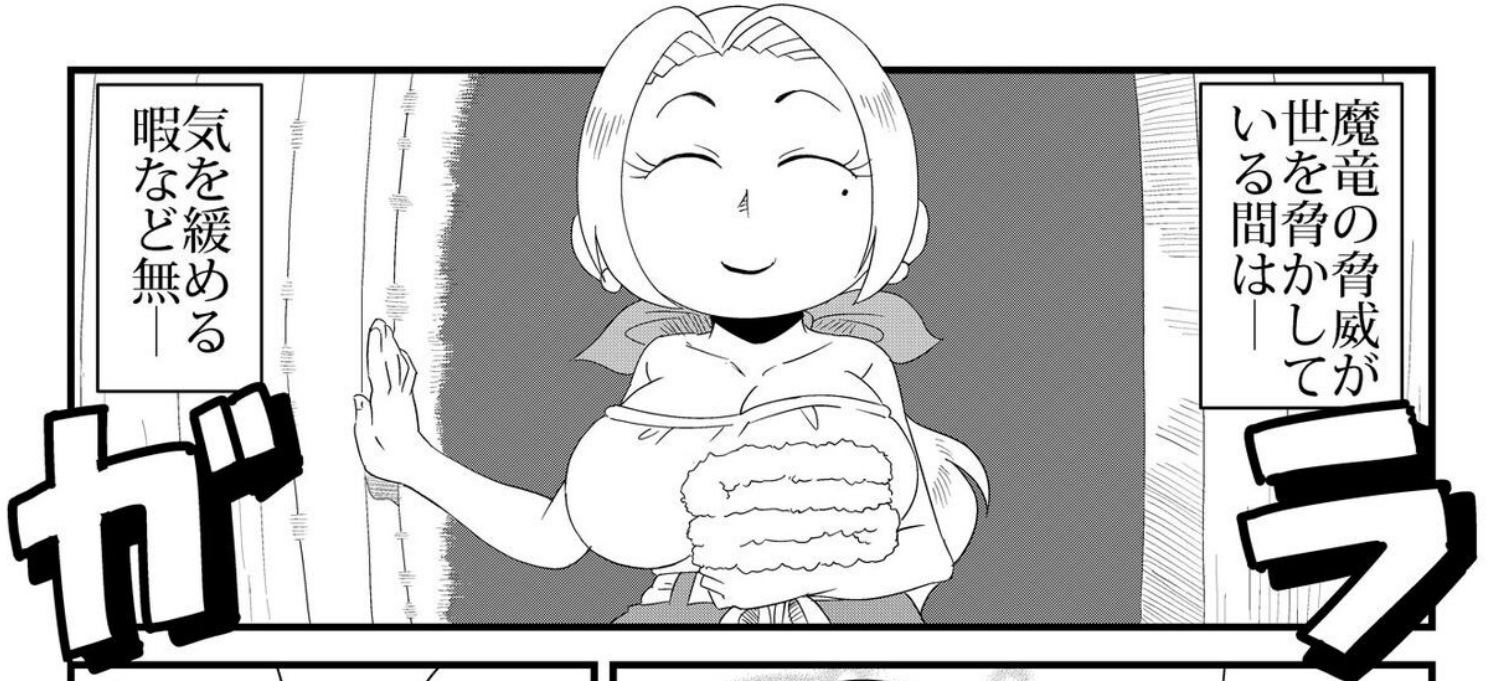


明日早朝に
此処を発とうー

此処は居心地が
良すぎるー



と月



魔竜の脅威が
世を脅かして
いる間は—

気を緩める
暇など無—

ガ

ラ



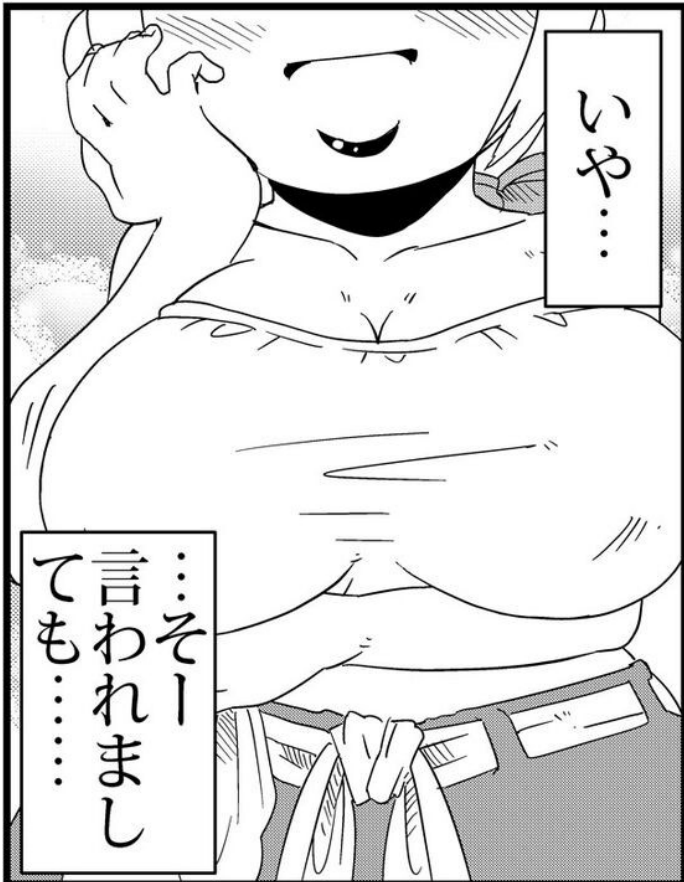
あのっ…
その…!!

ふふ…
そんな慌て
無くて



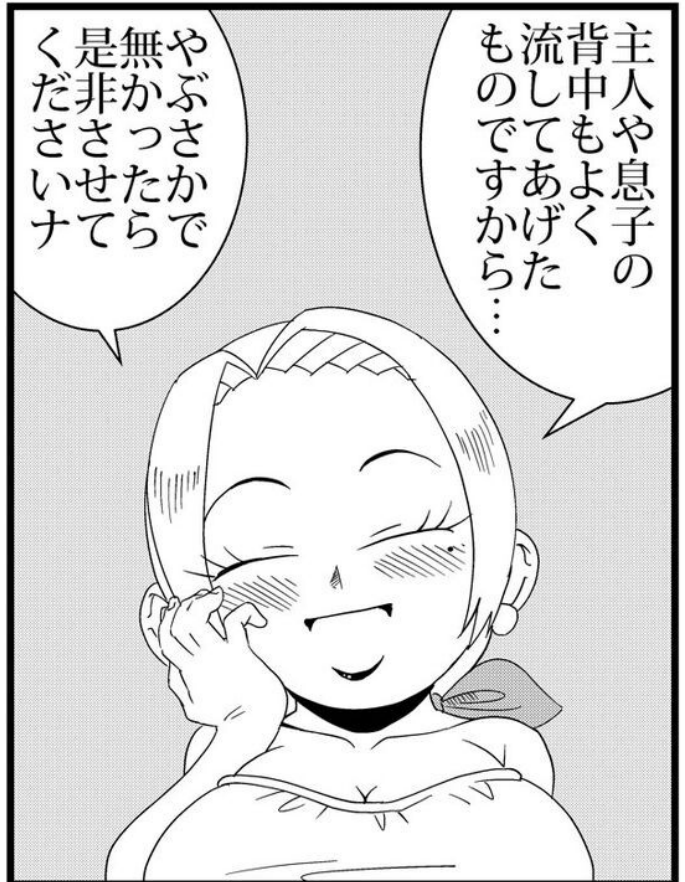
えっ!?
ちよっ!!

お背中
流しましょう



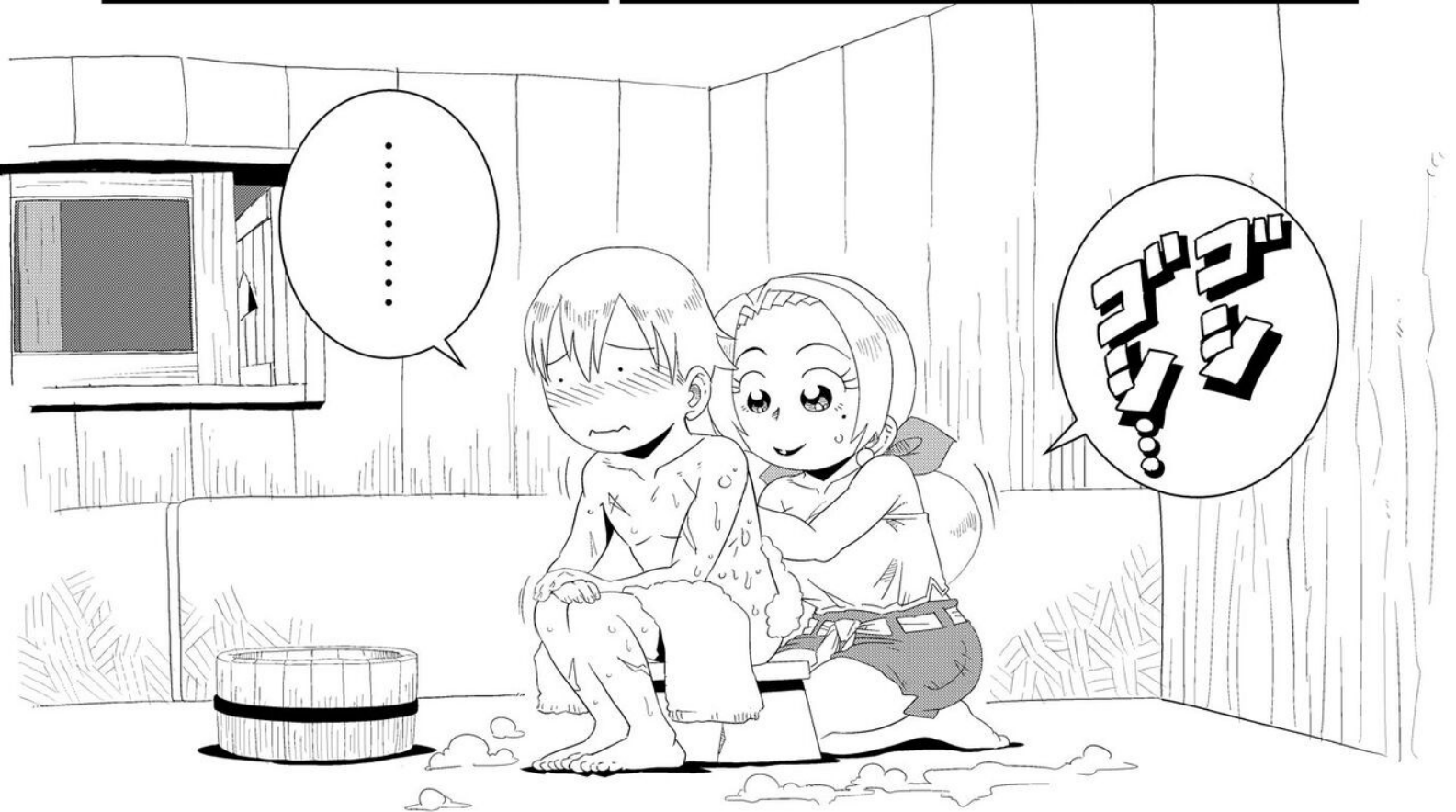
いや…

…そ—
言われまし
ても…

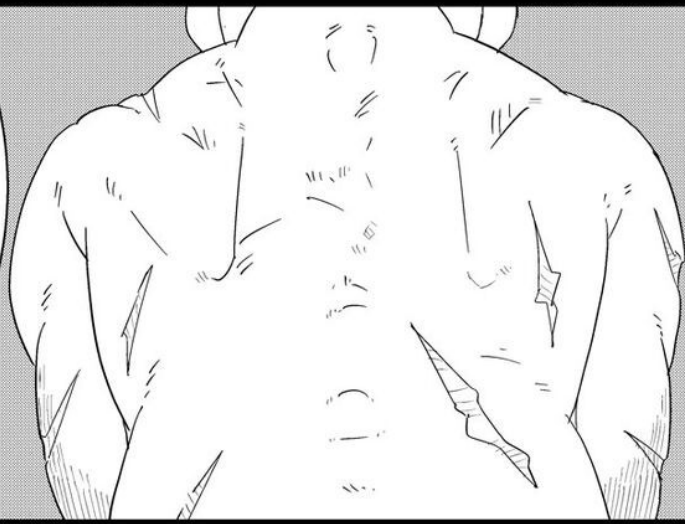


主人や息子の
背中もよく
流してあげた
ものですから…

やぶさか
無かつた
是非させ
くはださ
さいナ



駄目ですよ…
傷が塞がって
見た目に治った
様に見えても



身体に蓄積された
ダメージや疲労は
そんなすぐには
回復しない

医療・魔法・薬で
行う治療は
あくまで対処
でしかなくて

根本的な
治療って言うのは
「栄養の摂取」や
「休養をとる」事
でしか出来ない

…お詳しい
ですね

それは
もう…

経験から
言わせて貰っても
焦って良い事
なんてありま
せんよ

…私の主人や
息子の様に…

それって
言うのは…
つまり…

ええ、
魔物討伐に
出て二人共
そのまま…

ご家族…
ですか？

亡くなった主人は
やはり貴方の様に
魔物の討伐を
して暮らして
いました

息子の誕生を
契機に一旦
家庭に落ち着いて
くれたのですが…



夫とは
同じ討伐隊で
知り合っ
ました

偶然何度か
一緒にする機会を
経て意気投合
してそのまま

元々身体がもう
ボロボロだったと
漏らしてた
事もあり子供を
授かると庭に
小さな畑をこしらえ

木こりの仕事を
して長く
家に落ち着いて
くれる様になり
ました

けれど子供が
大きくなると
「家族が安心して
暮らせる世界に
したい」と言って
彼は剣を携え再び
旅立ちました

— そんな彼が
赴いた魔竜討伐から
亡骸になつて家に
戻つてきたのは
そのほんの少し
僅か後でした：

そして息子も又
大きくなる
と父の仇を討つ
と旅だつて
行きました

本来「闘争向き」
でない性格を
知っていた私は
全力で止めたけど
……

……ですから……ね？
先ずは身体を
治しましょう？
宿代の事は気に
しないで
良いですから……

……はい……

俺だつて生活早く
こねな……が、
離れたい……なら
魔竜に怯えながら
暮らして続けるんだ
もつとウンザらで

おかみさんの
心遣いは俺は
暖かいけど俺は
こんなトコで
立ち止まる
訳にはいかない

——とは言え



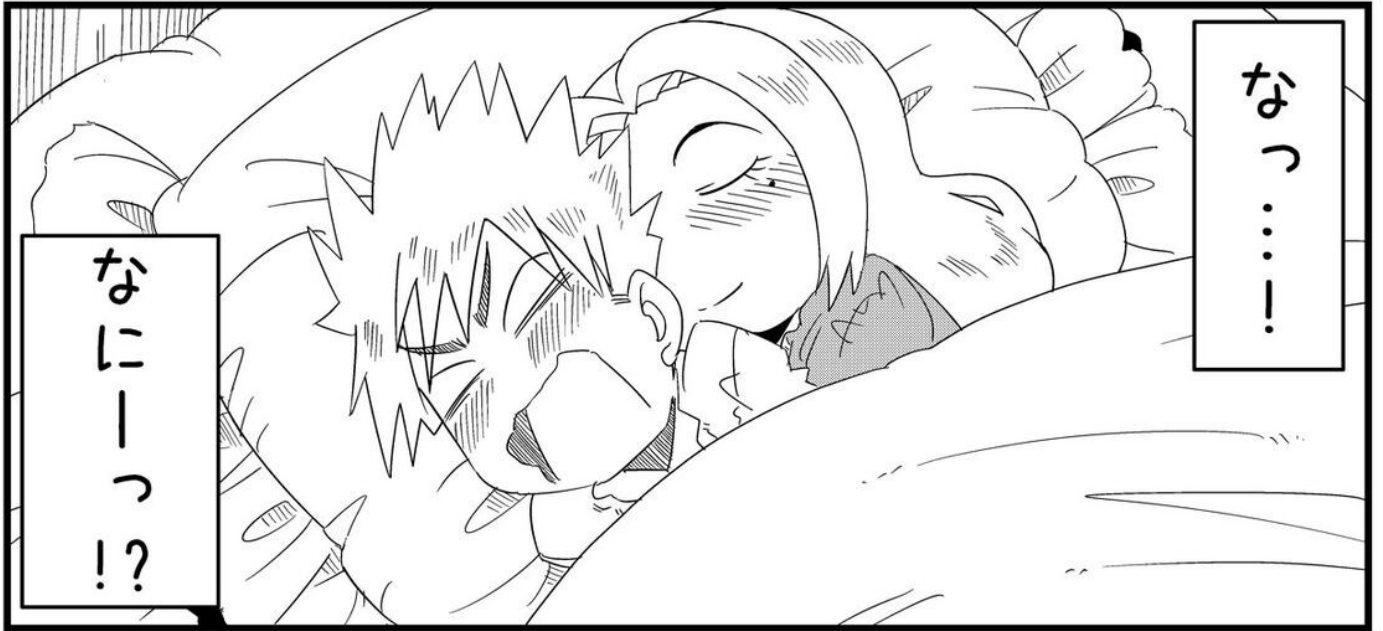
日が昇る前に
静かに此处を発つ



宿代少し多めに
置かせて貰って

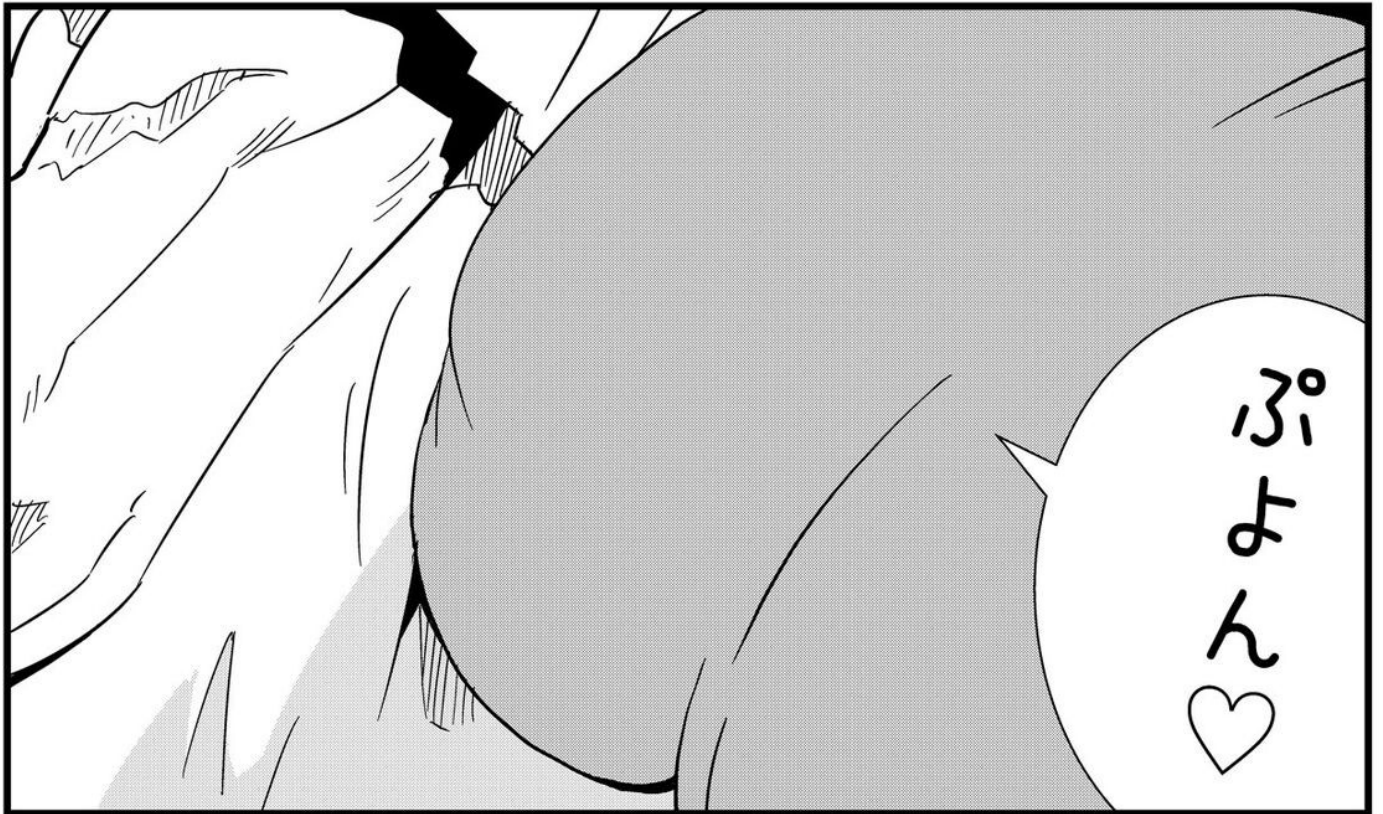


…ん…

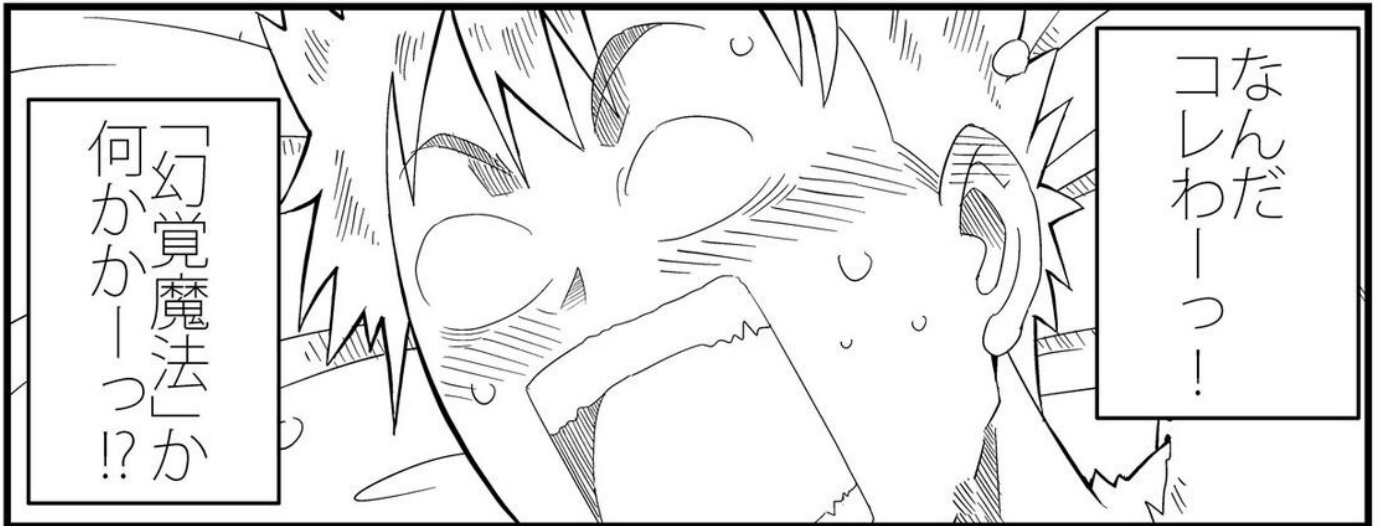


なっ……!

な——っ!
!?

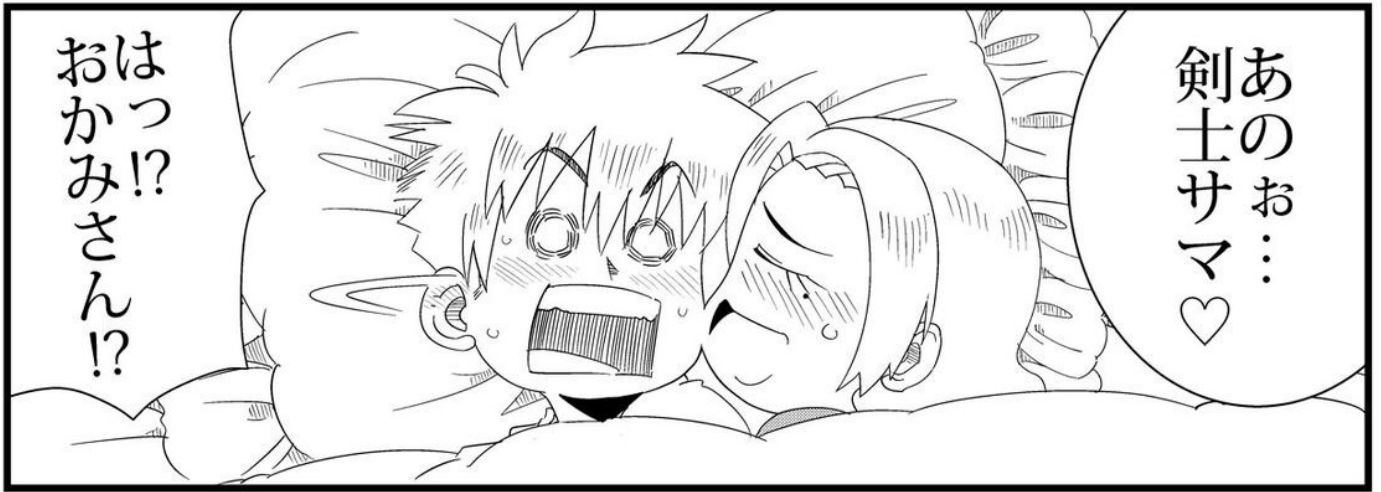


ぶゆん
♡



な
しんだ
——っ!
!

「幻覚魔法」か
何かか——っ!
!?



あのおお：
剣士サマ♡

おはっ!!
おかみさん!?



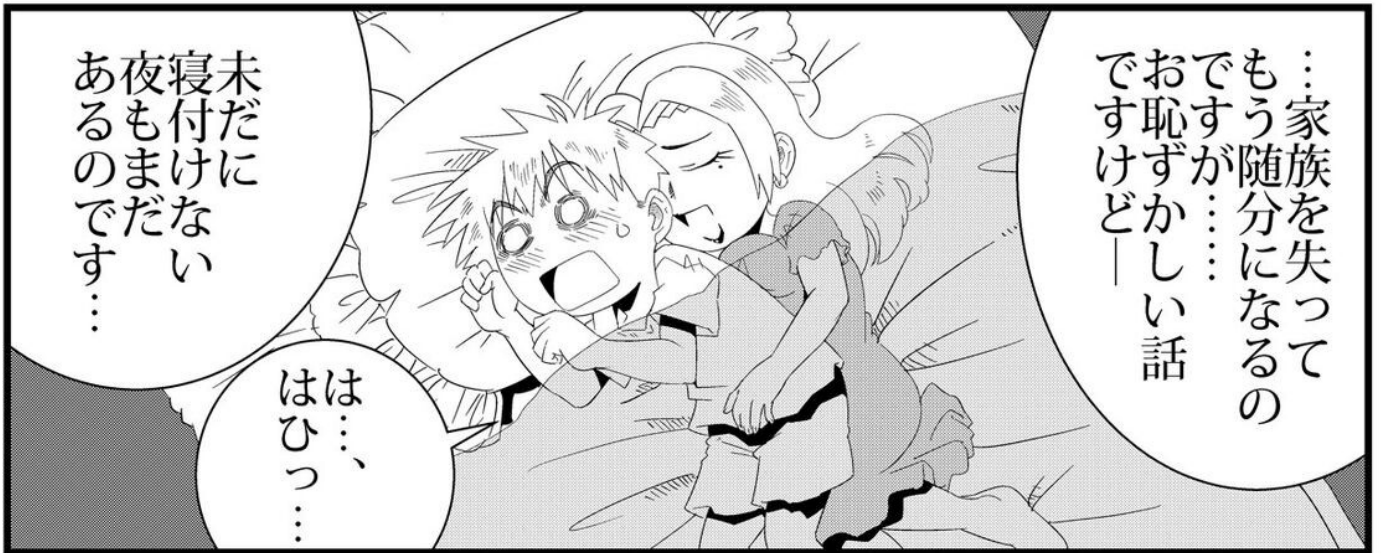
お願いが
あつてココへ…

なっ…何で
しようかつ…?



ごめんなさい
驚かせて
しまつて…

ななななな
何でこつ
ココに
いつ!?



…家族を失つて
もう随分になるの
ですが…
お恥ずかしい話
ですけど—

未だに
寝付けない
夜もまだ
あるのです…

はは…
はひっ…



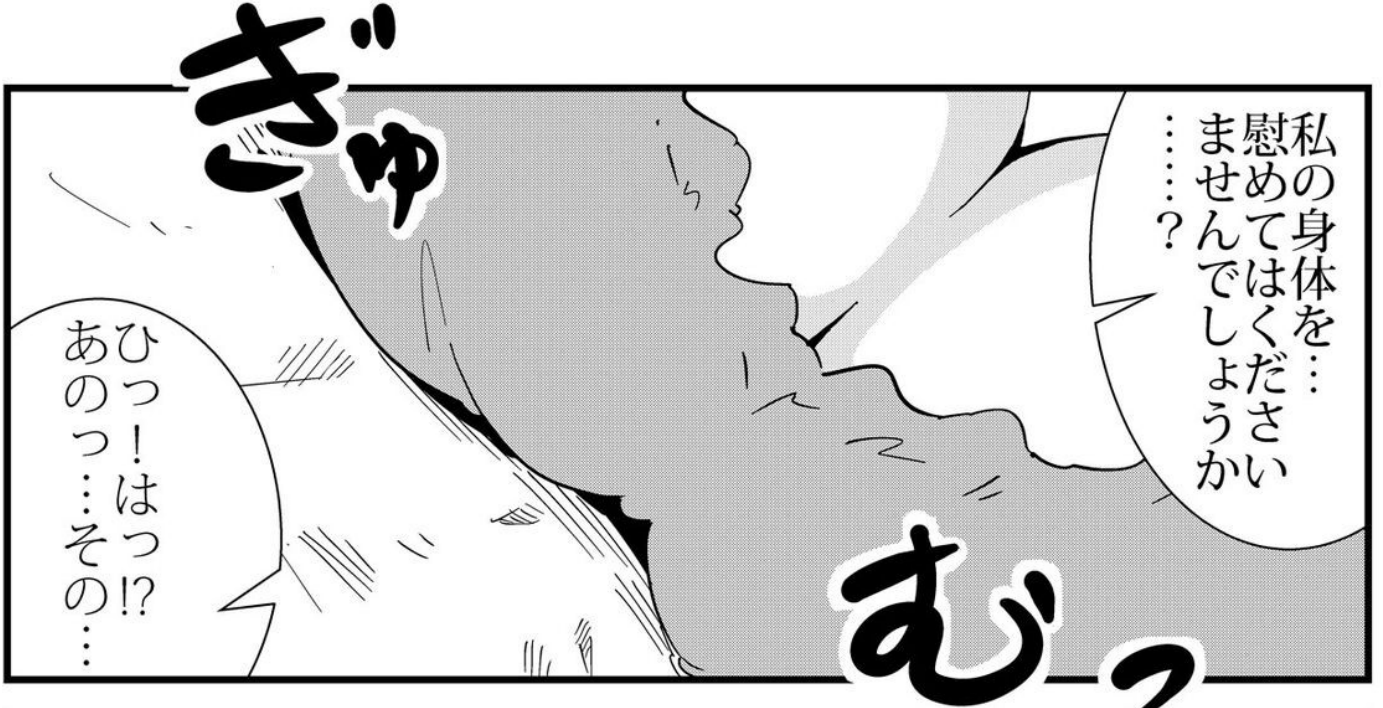
…身を預けて
戴いたままで
構いません…

どうか…



亡くなった夫を
今も愛して
いるのですけど
……

その前に
私も又
「二人の女」
なのです



私の身体を…
慰めてはくたさい
ませんでしようか
……？

あひっ！はっ!?
あのっ…その…

むっ



いやっ、しかし
彼女は未亡人
で…未だ尚

おっばいが
大きいな
おかみさん
前夫への
残つていて

いや、それより
俺には
やらなきや
ならない事が

おっきくて
柔らかいのが
当たっている

あああああ
あああああ
あああああ!



ふん

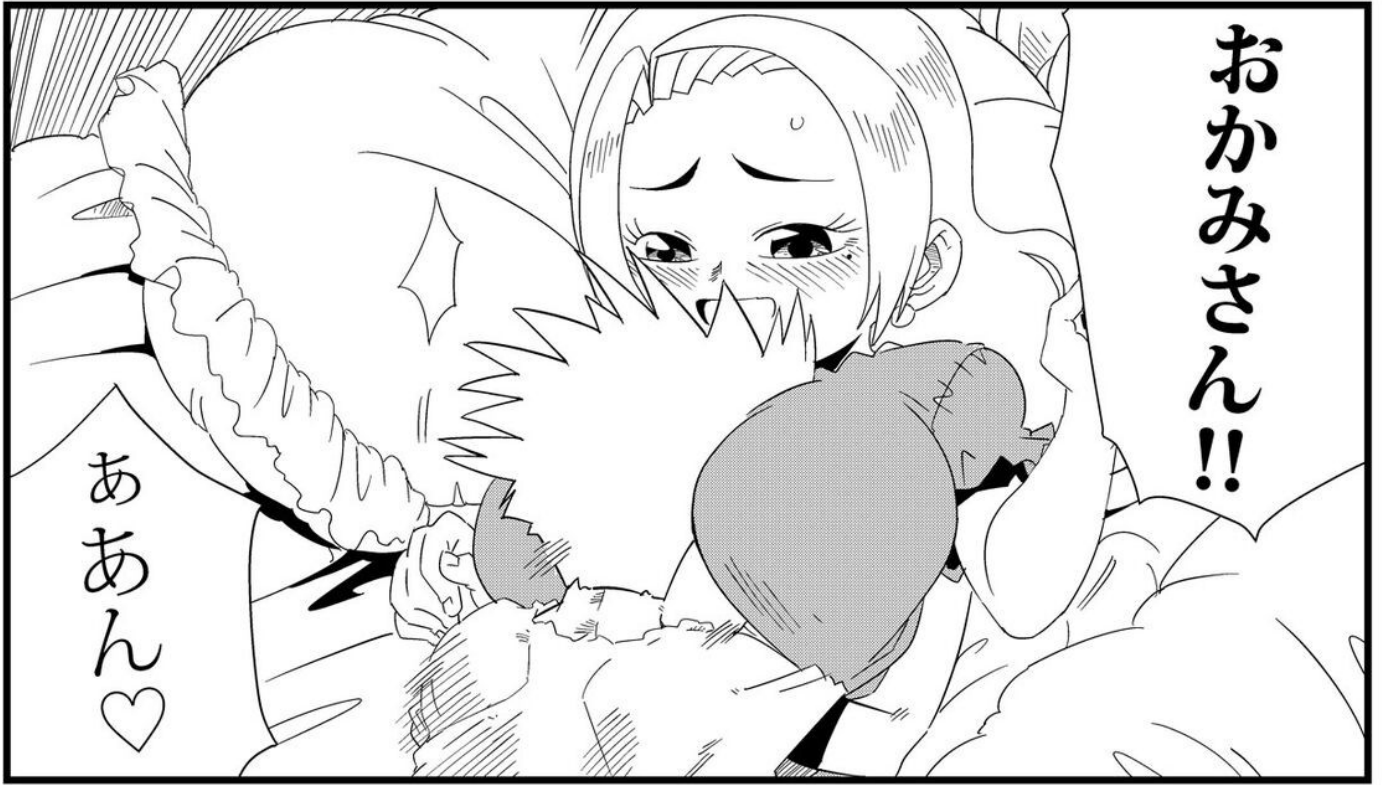
ほっ…
本当に…

…良い
ですか?



…はい
♡

……



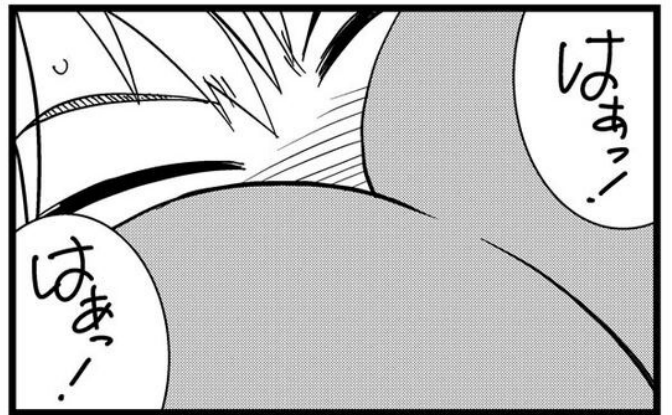
おかみさん!!

ああん♡



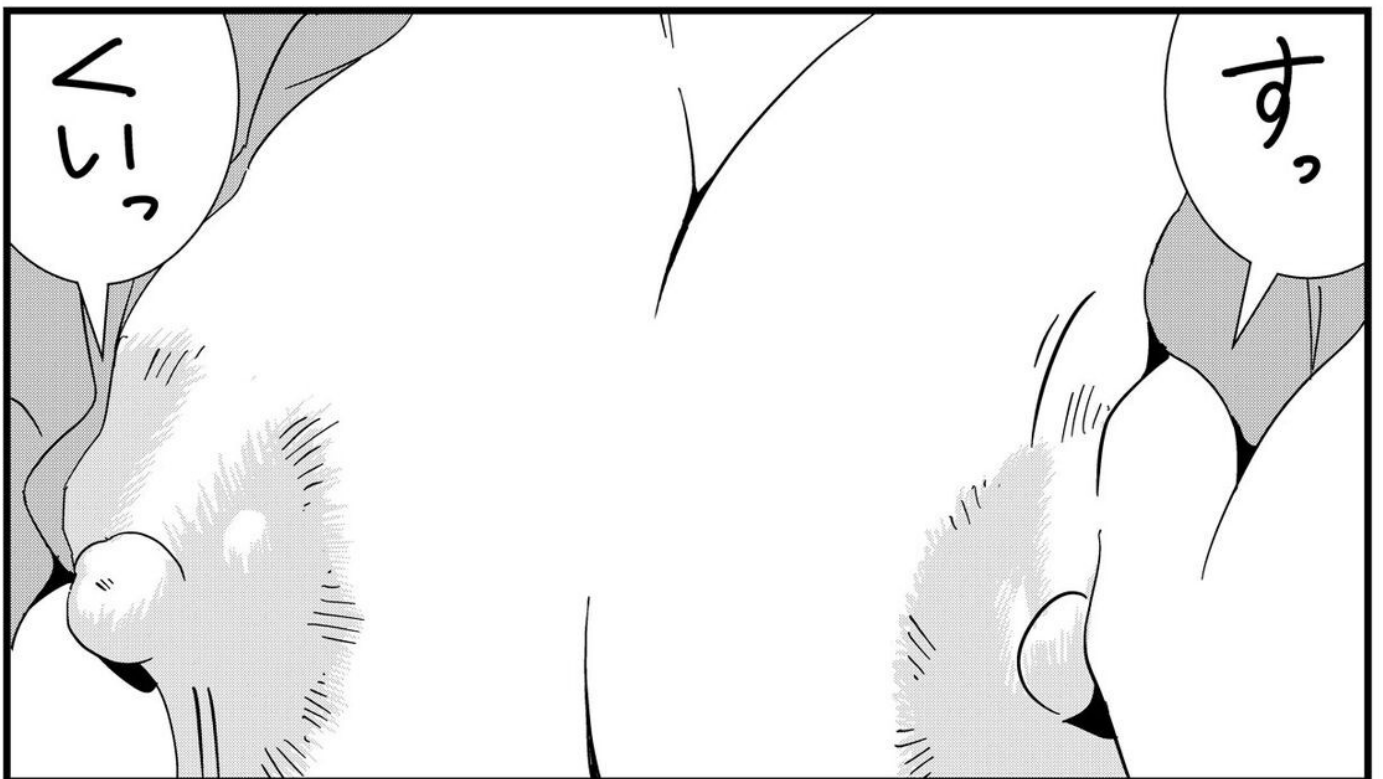
ごめん
さんな
さいな
さんな
身体
でだ

そんな事...
そんな事...
無いです!



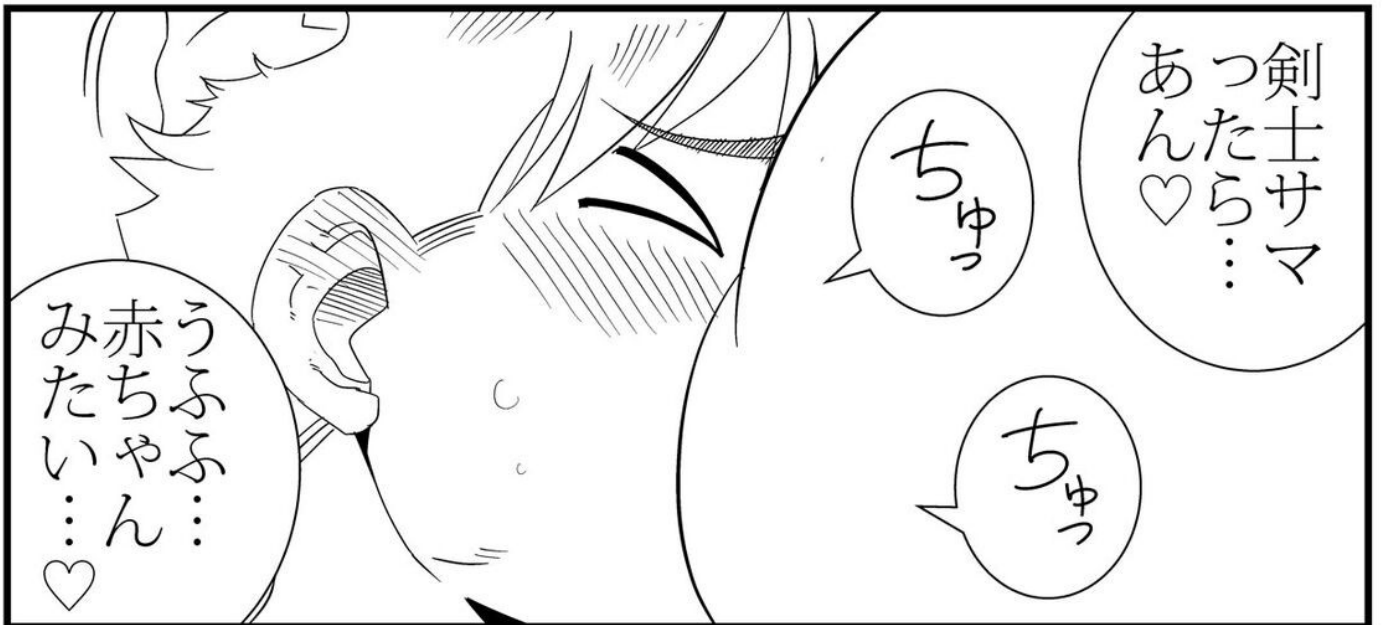
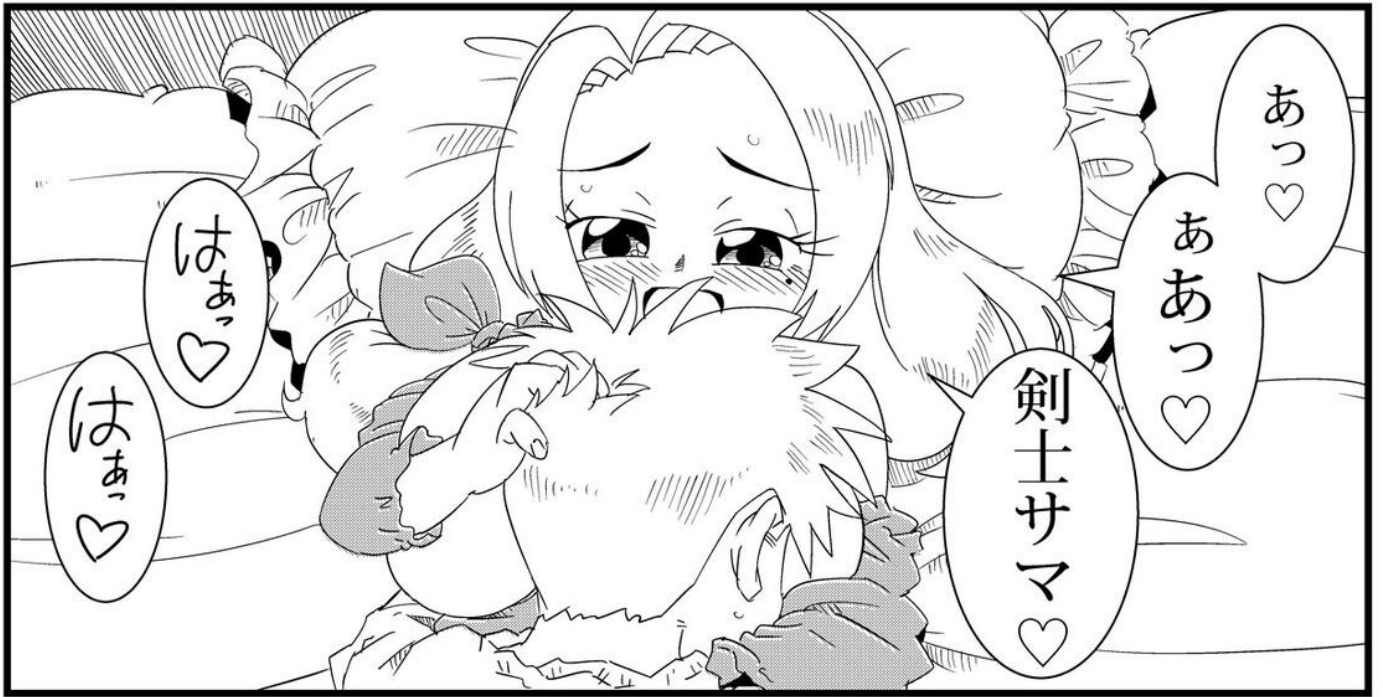
はぁっ!

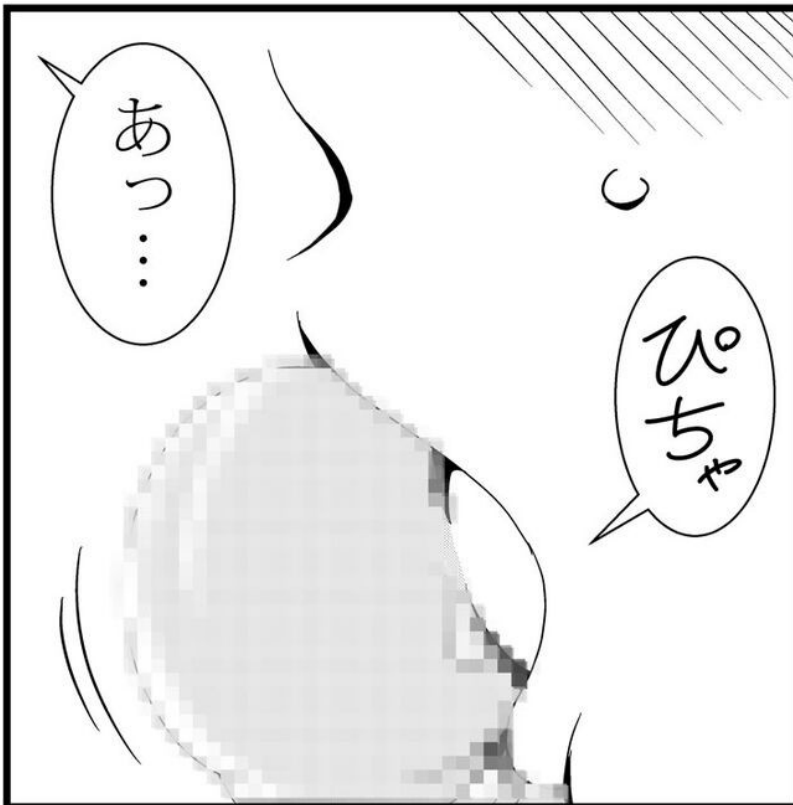
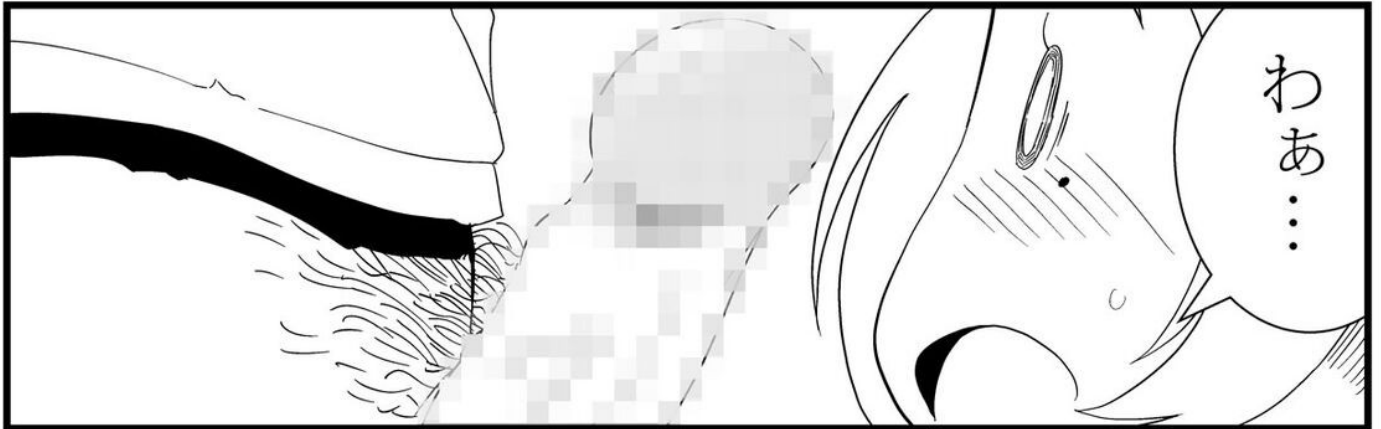
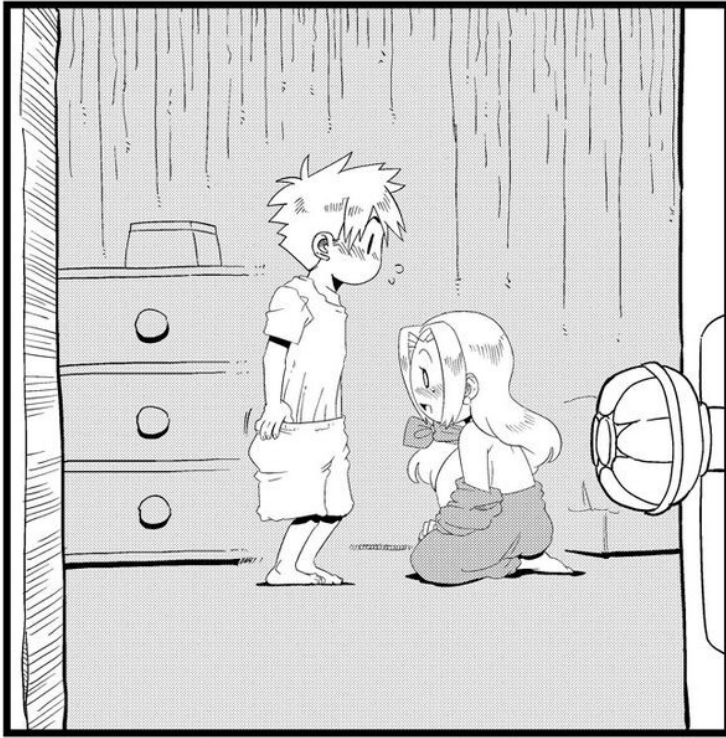
はぁっ!

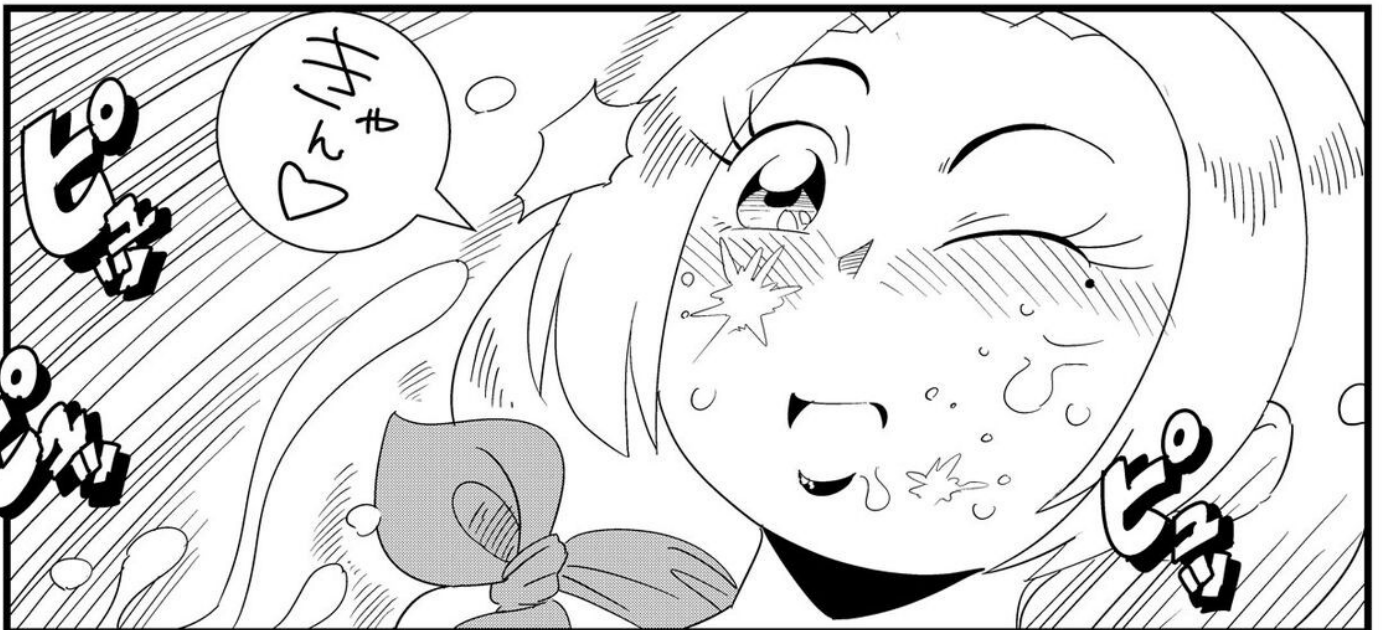
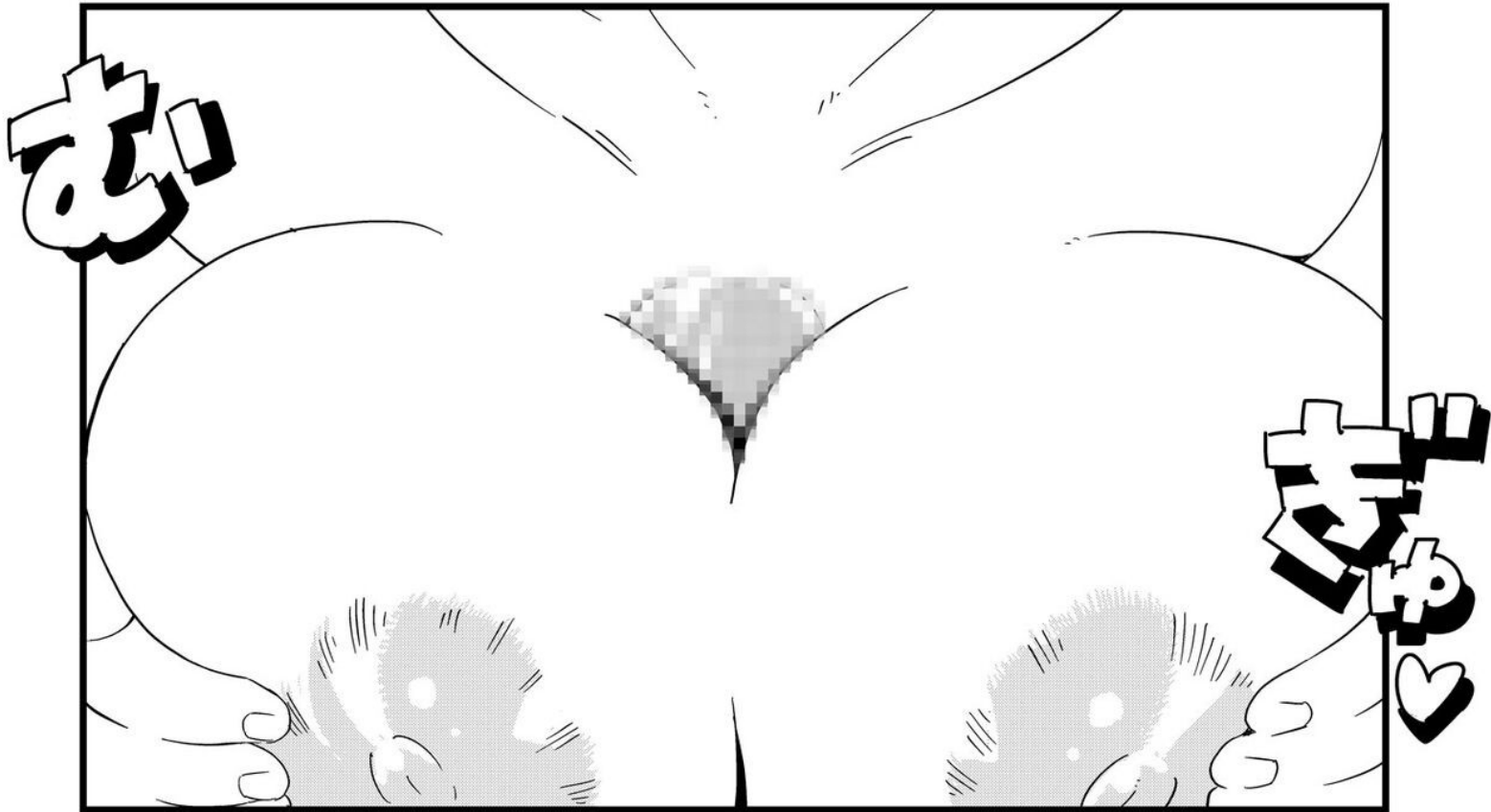


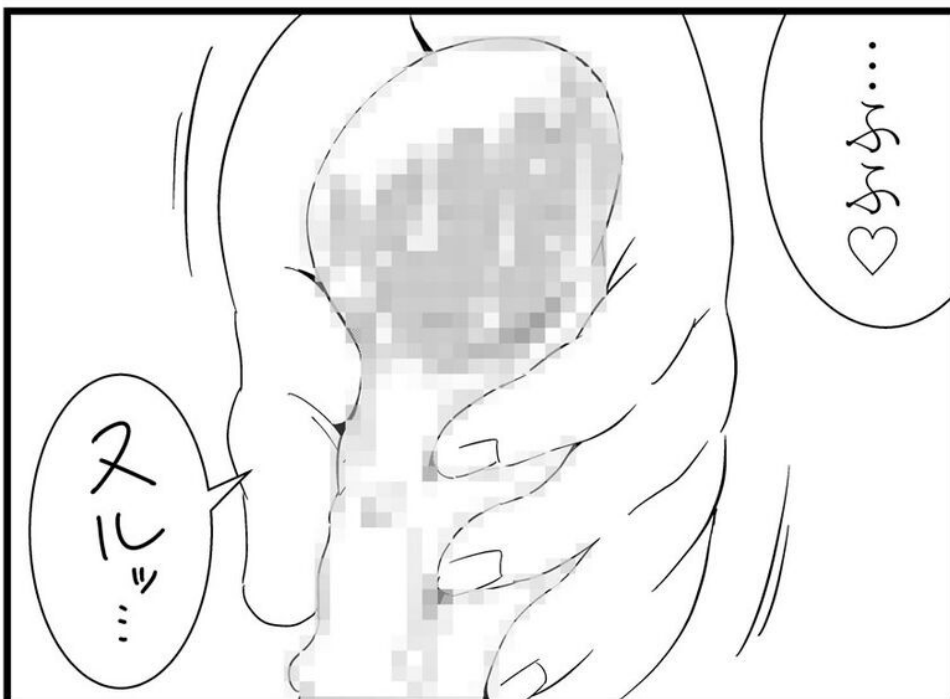
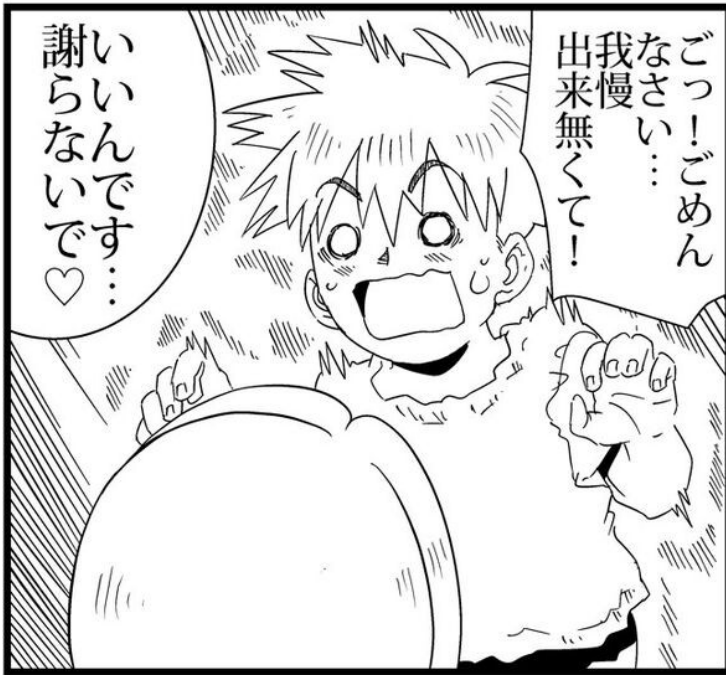
くいっ

す









あの…重く
ないですか？

いえ全然…
そのまま身体
預けて
ください…

ズズズ…

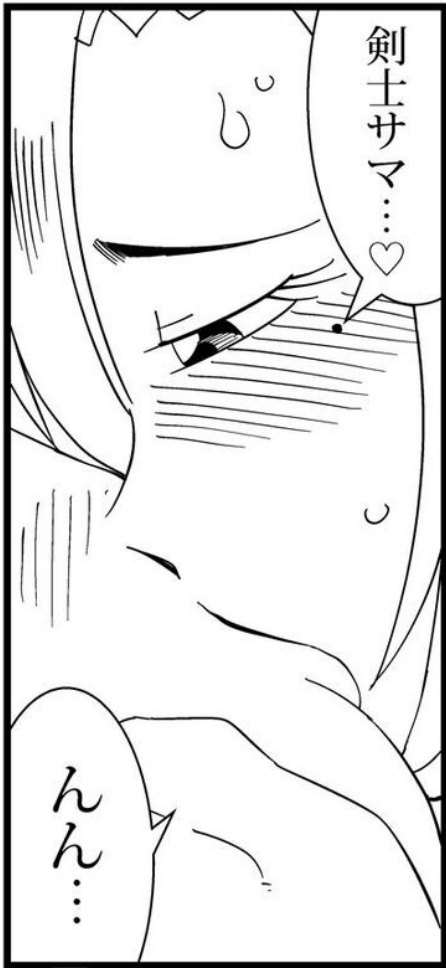
…あ…

ああ…♡

はあ…
はあ…
はあ…
全部入っ♡
ちやっ♡

おかみ
さん…





ズンッ!
ズンッ!
ズンッ!

ズンッ!
ズンッ!
ズンッ!

あああああッ!
あああああッ!
あああああッ!

ズンッ!
ズンッ!
ズンッ!

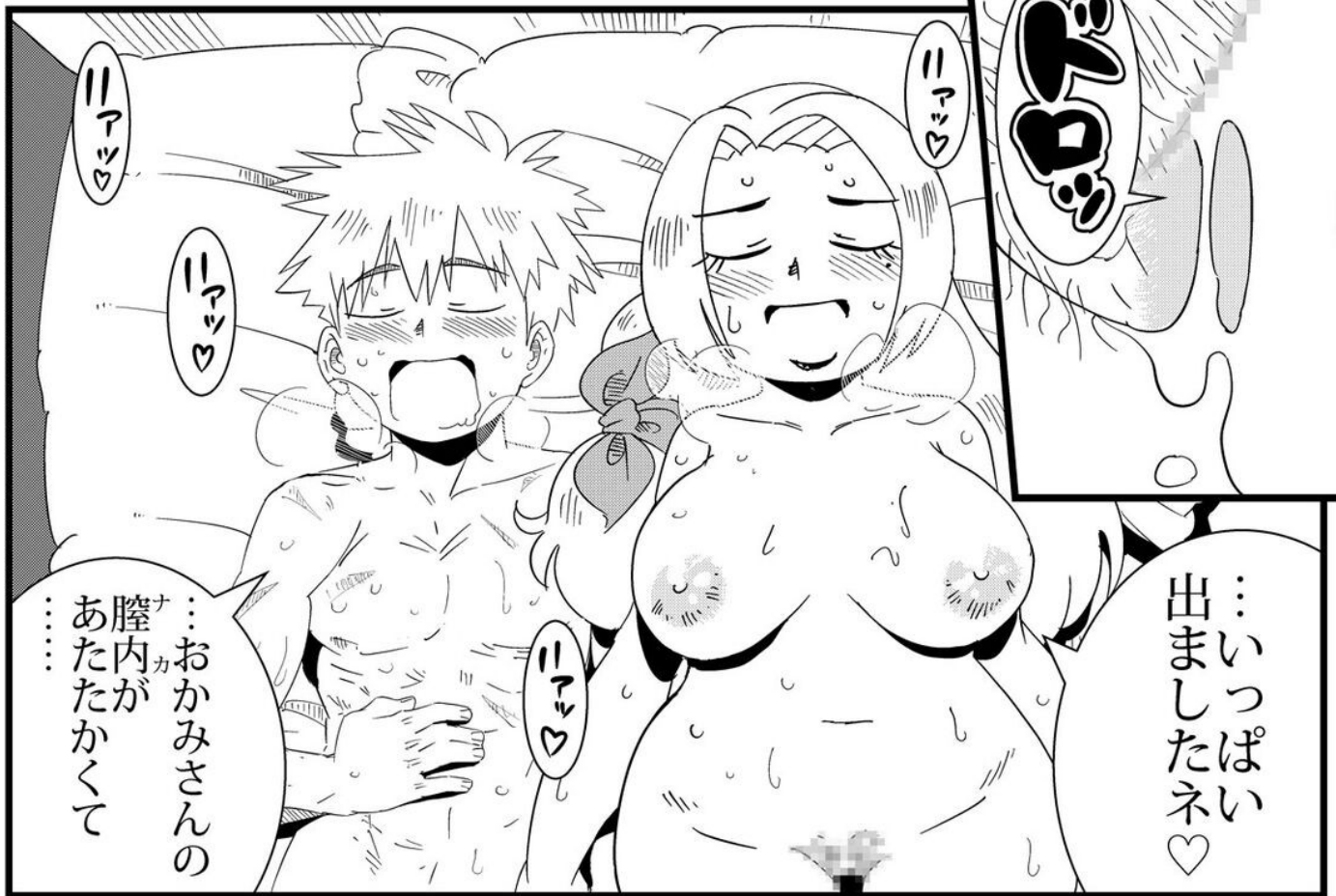
ズンッ!
ズンッ!
ズンッ!

あ♡あ♡あ♡
あ♡あ♡あ♡
あ♡あ♡あ♡
あ♡あ♡あ♡

ズンッ!
ズンッ!
ズンッ!

ズンッ!
ズンッ!
ズンッ!





…いつぱい
出ましたネ♡

ソフィア

ニアッ♡

ニアッ♡

ニャ♡

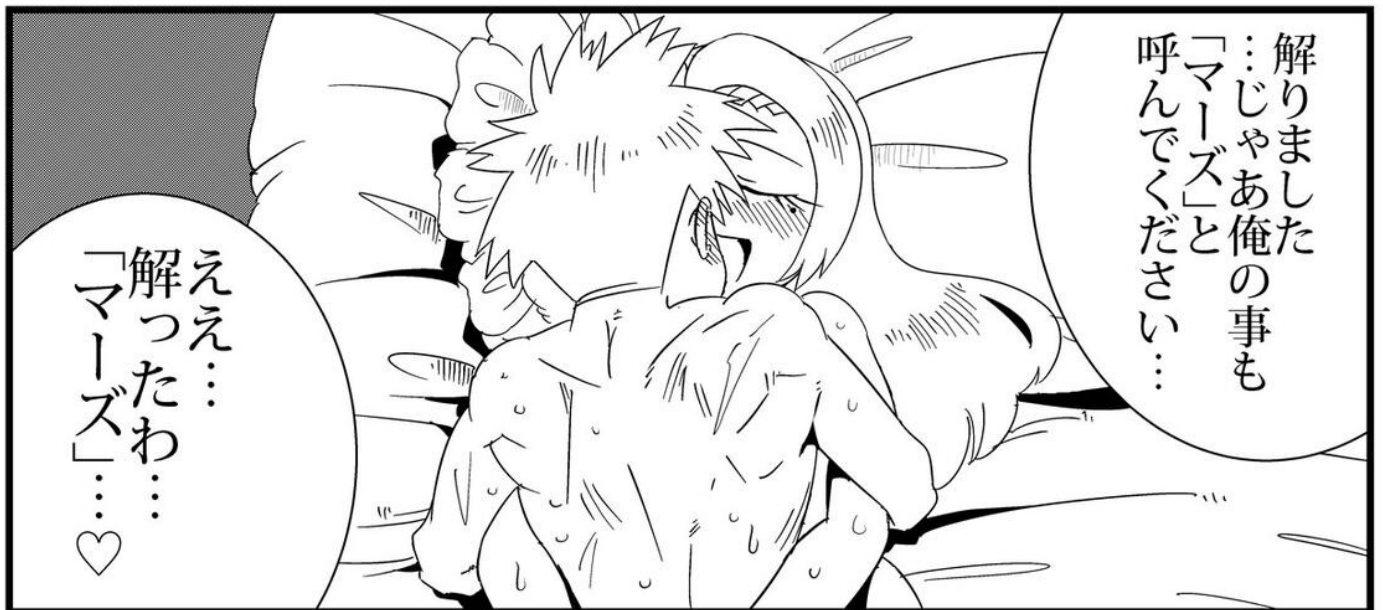
ニア♡

…おかみさんの
ナカ内カ
あなたが
かかくて



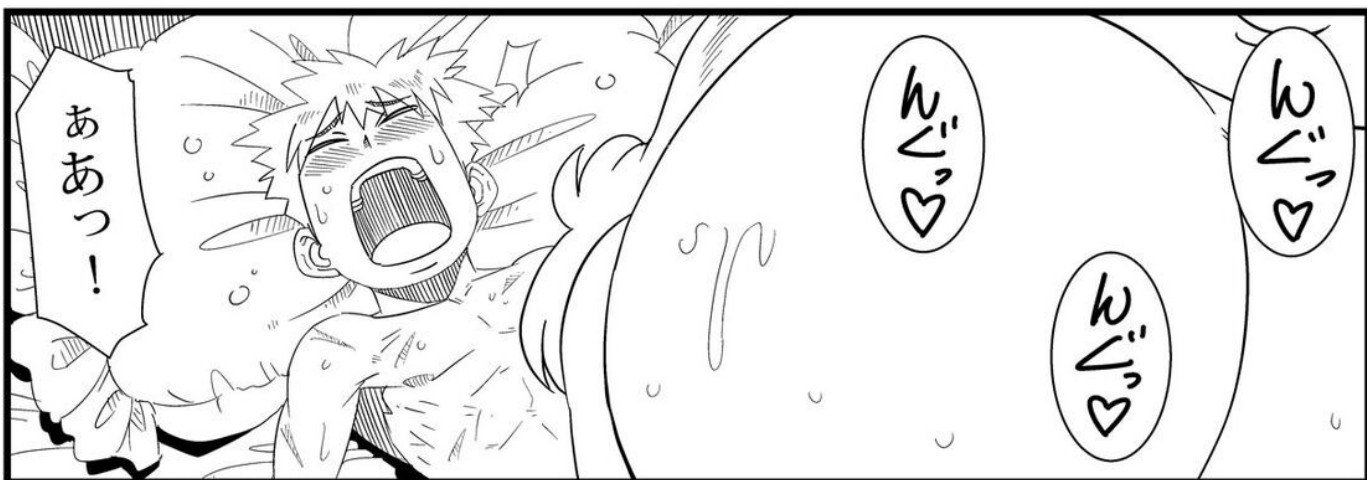
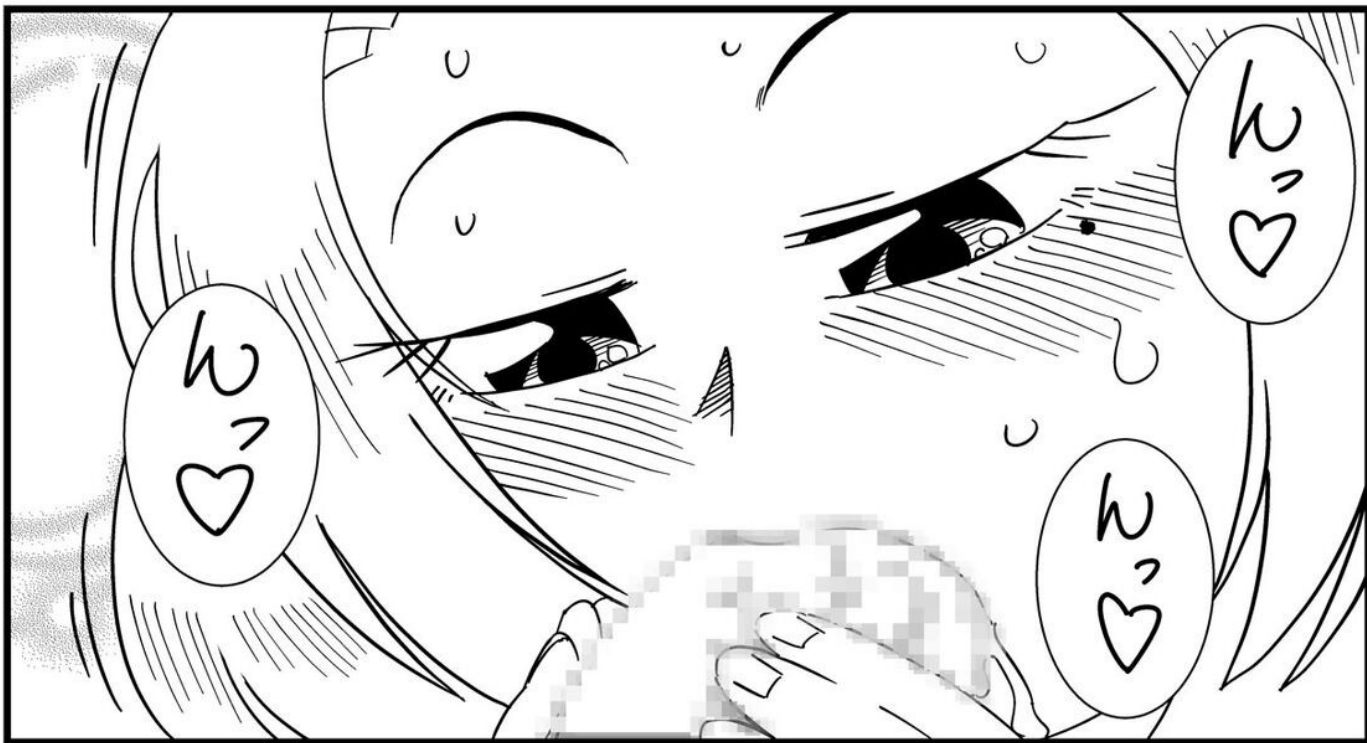
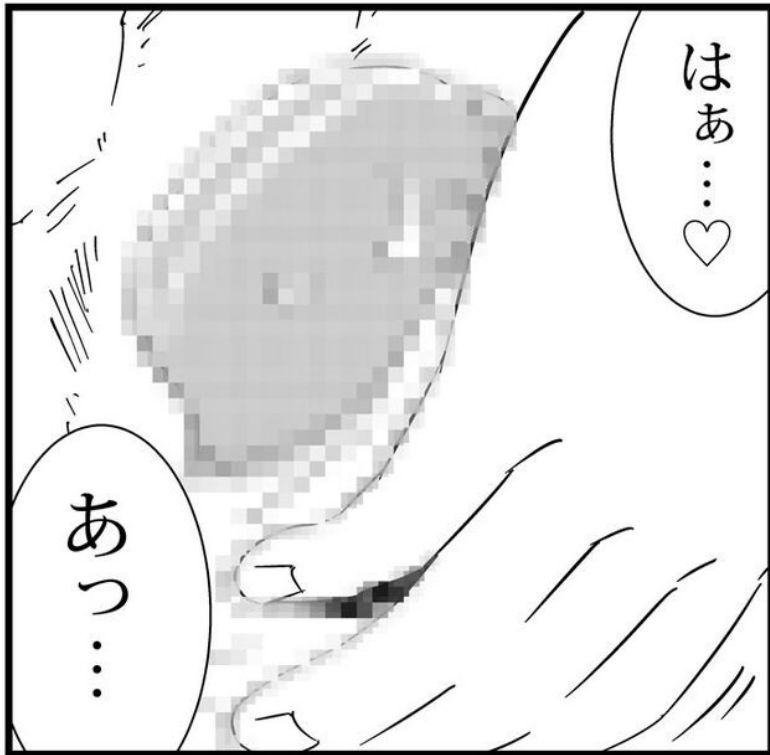
あの…
「ソフィア」とも
呼んで貰っても
良いですか？

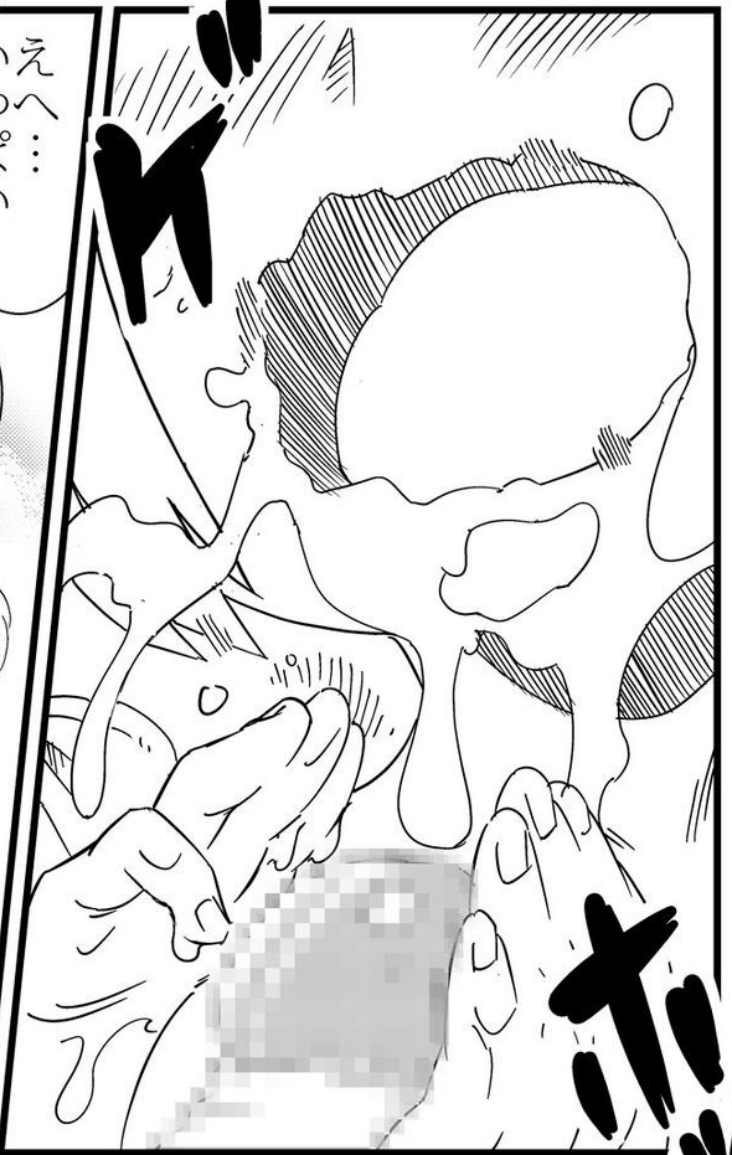
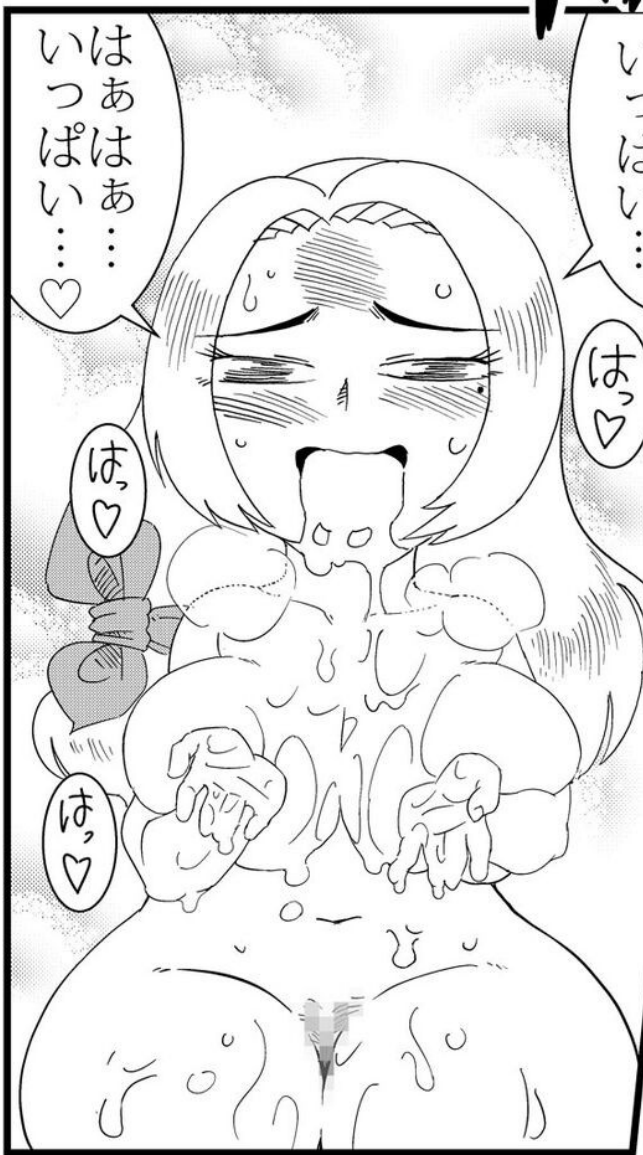
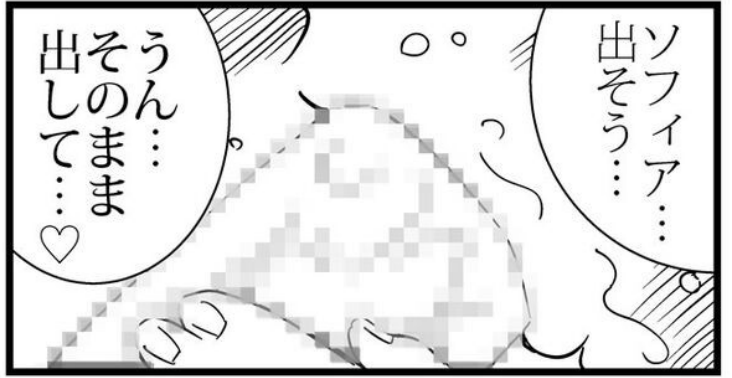
ソフィア…

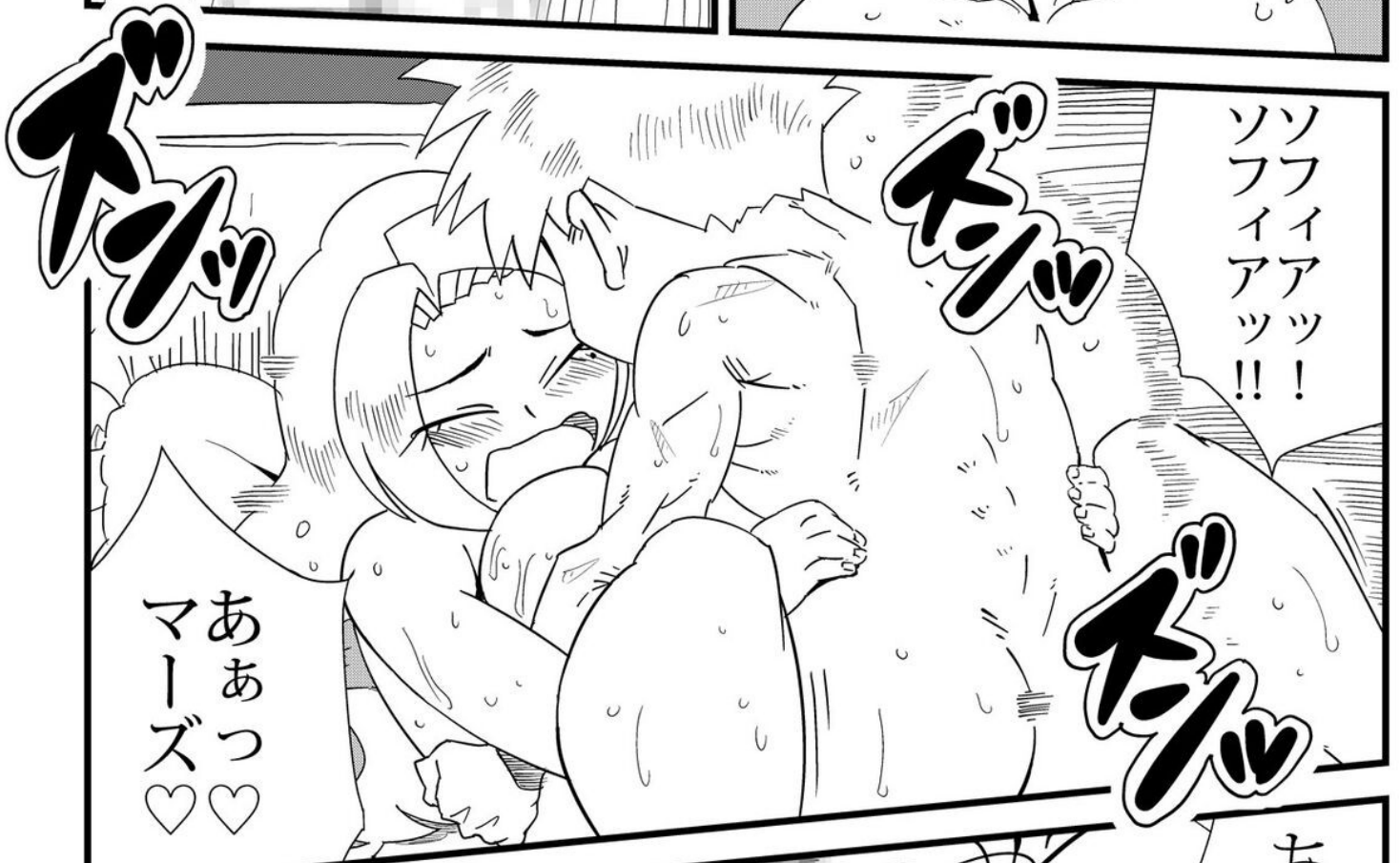
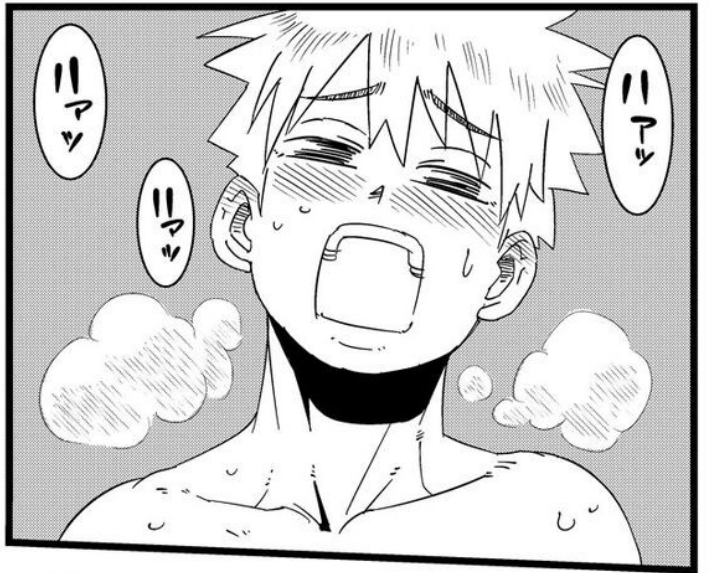


解りました…
じゃあ俺の事も
「マーズ」と
呼んでください…

ええ…
解ったわ…
♡









ソファイア：
又：俺：
イキそうっ！

あゝ♡

あゝ♡

あゝ♡



来て！キて！
マーズ…！！
私もー

イクッ♡

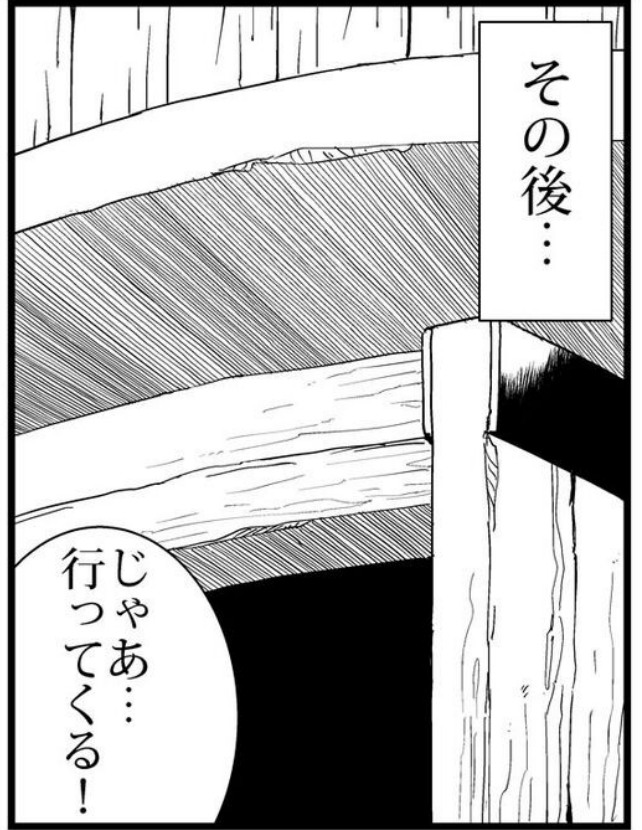


ズチュッ!!

あゝ♡

ズチュッ!!

その後…



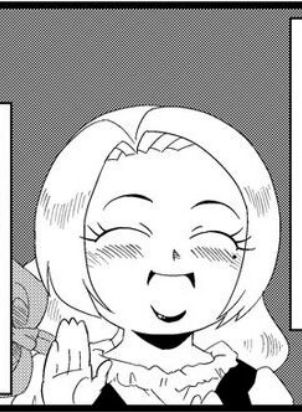
じゃあ…
行ってくる！

此処での滞在を
日一日と延ばして
居る内に私は
この家この村の
住人になった



ソフィアは快く
申し出てくれた
受けてくれた
私の「妻」に
なってくれた
今思うとあの晩

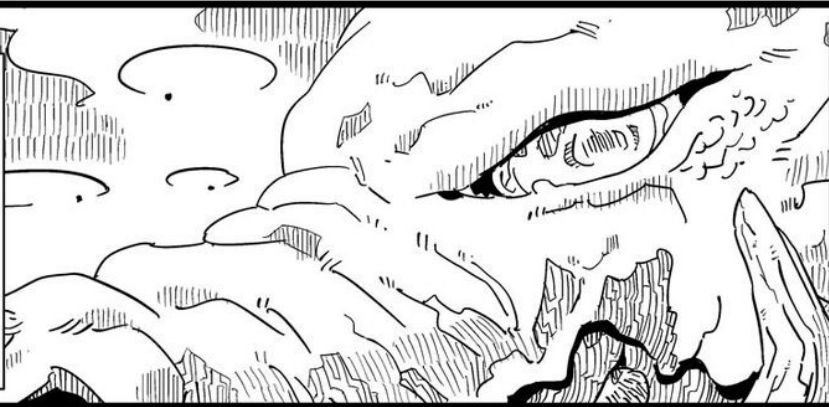
「死に急ぐ」私を
引き留める為に
彼女はあんな強引な
手段を試みたの
かもしれない



今となっては
知る術も無いが
彼女の居ない
人生等あり得ない
今私にはもう
どちらでも良い…

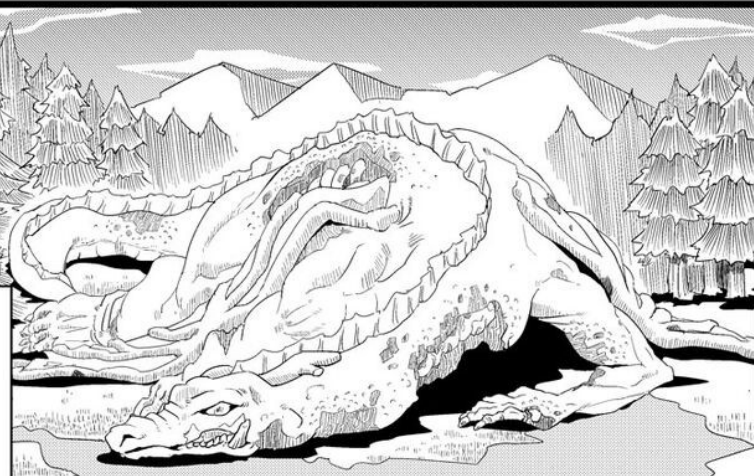
「とは言い器用に
剣士としての
生活を切り離した
訳でもなく半々の
気持ちで暮らして
いたある日」

魔竜が
死んだが



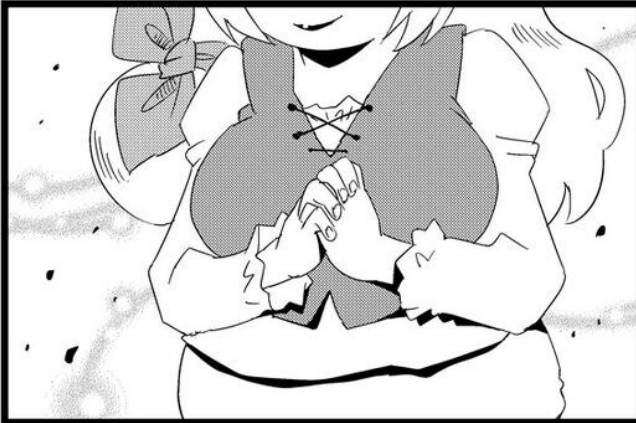
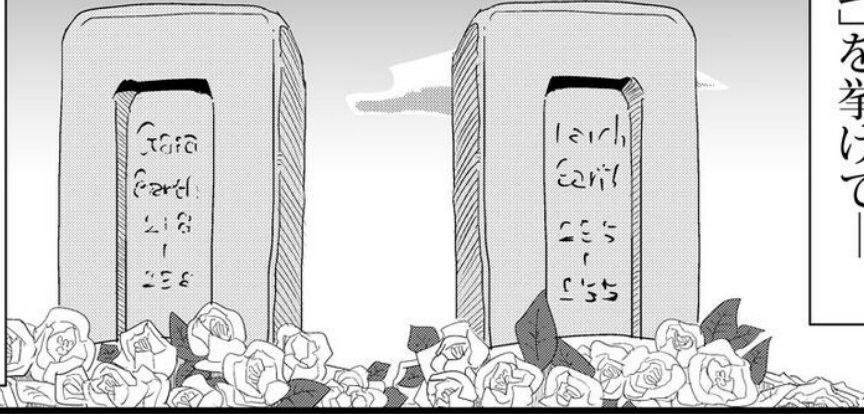
長寿な生物だが
「不死」な訳じゃない
長く続いた恐怖の
季節は前触れ無く
「寿命」という形で
「終」を迎えた

魔竜の死の噂は
瞬く間に広まり
呼応するよう
主を失った魔物達も
人の報復を恐れ
いずこかに消えた



その出来事を
きっかけに私達は
ささやかな
「式」を挙げて――

正式に
「夫婦」となり
彼女の「家族」
にも無事
報告をした――



あの時、無理を押しして
此処を離れて居たら
無駄に命を散らした
今の幸せは無かったの
かもしれない――

彼女との愛の
証として授かった
新たな「生命」と
歩んでいける
幸せを……

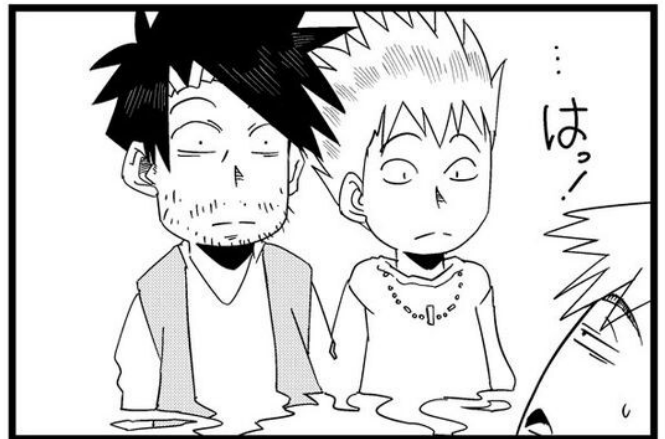


おしまい

そばにいるぞ



夢枕



この度は
「Under The Dragon's Fear」を
御手にとって戴き
誠に有難う
御座居ます。
最近描くペースが
ちょっと落ちております。
大変申し訳
ありません...。
今回に致しては
ほぼ初めて「奥さん」
系のキャラを手探りで
出してみたので、
上手く受け入れて
戴けるキャラに
なつたかも
気がかりです...。
楽しんで
戴けたら幸いです...
ではでは!



2024.7.16 □